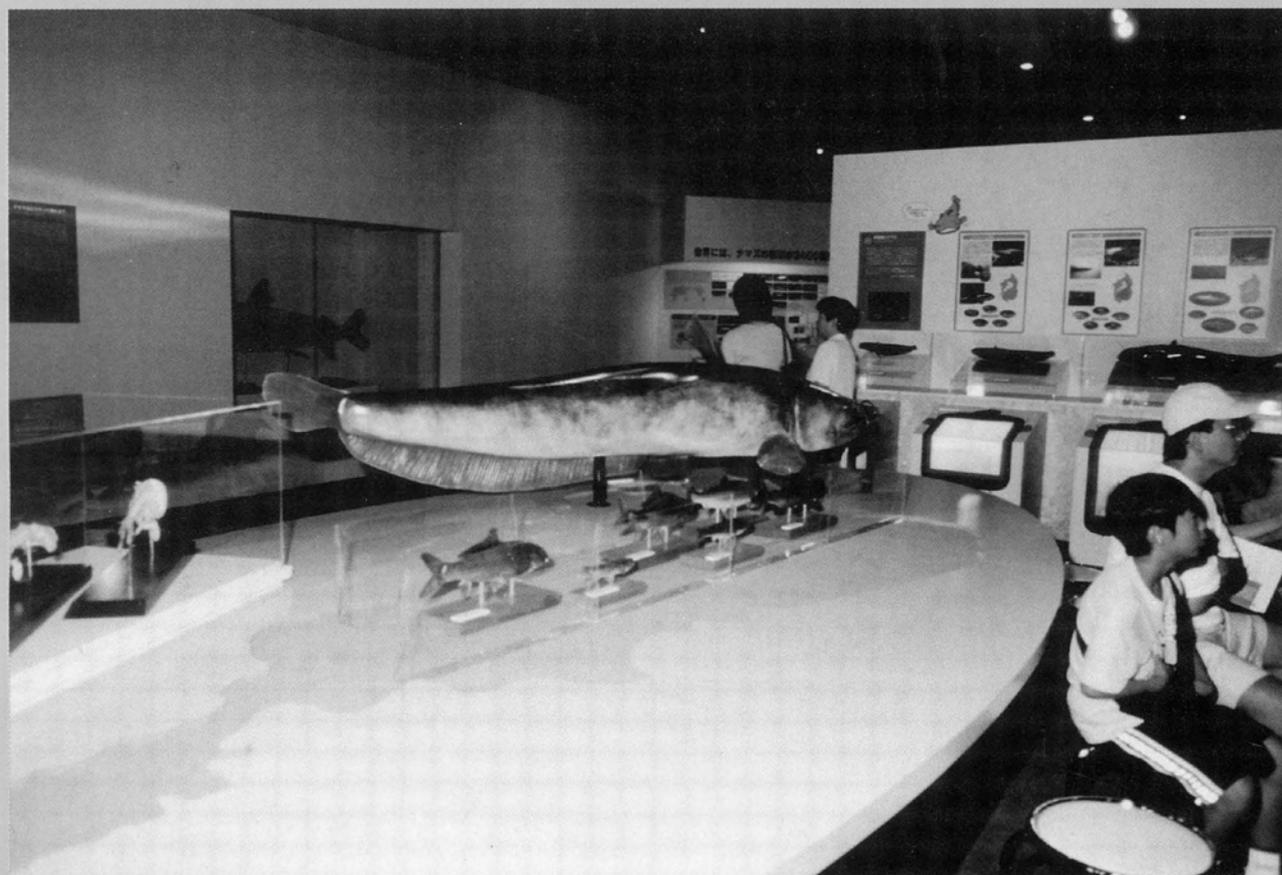


琵琶湖博物館 年報

6号

平成13(2001)年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

ごあいさつ

琵琶湖博物館は、昨2001年10月に一般公開5周年を迎えることができました。多くの方々の御協力の賜物であり、深く感謝しております。

2001年度には、記念行事を含め、いくつかの事業に取り組むことができました。その中心は7月から11月にかけての、『鯰なまず-魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ-』の主題のもとに、自然科学と人文社会学とを結合した記念企画展示です。これは幸いにも、オランダのライデンにある国立自然史博物館・国立民俗学博物館の全面的な協力を得ることができ、多くの方々に見て頂きました。また会期中の10月中旬には、秋篠宮文仁様をはじめ数人の方を招いて記念シンポジウムを開催し、これにも多くの方々の参加を得ることができました。

また、これに関係した『おもしろナマズ大発見-さまざまな姿と習性-』と、『滋賀のカメたち』の水族企画展示、『鉱物化石展-湖国の大地に夢を掘る』『写真のナゾとき大作戦-子どもによる地域調査』『民俗資料 米をつくる道具-春・夏編-』『湖の十字路-野洲川平野の弥生・古墳時代』などのギャラリー展示も開きました。

この年度には、さらにいくつかの関連行事がありました。5月には琵琶湖博物館が中心になって、日本動物園水族館協会の総会と協議会を大津で開き、環境の世紀に相応しい動物園や水族館のありかたなどについて討議を行ないました。また、11月中旬には1週間あまりにわたって、第9回世界湖沼会議を開きましたが、この言わば「里帰り会議」においては、学芸員はもとよりのこと、琵琶湖博物館に関連して進められてきた住民・市民による多くの報告もなされました。同時に、これに関連するいくつかの展示も、琵琶湖博物館や湖沼会議本会場などで行ないました。

こうした多彩な行事の開催とともに、2001年度は博物館にとって、地道なところでもさまざまな試みを始めた年でもあります。例えば、博物館と来館者を結び、いや、来館者が博物館そのものを創っていくものとしての「はしかけ」制度が、実質的に始まりました。また、いわゆる「総合教育課程」を見越した体験学習のモデルは、数年前から博物館が主体になって作り始めてきましたが、それを受け継いだ自校指導型の各学校独自の体験学習の実践も、同様に始まりました。さらに、学芸員が中心になって「連続講座」を開催し、その成果を出版することもできました。

一方で、開館10年目のリニューアルを目指す基本計画の策定、情報・映像機器類の更新、低迷する来館者対応など、開館数年を経た博物館ならではの課題も抱えています。こうした博物館内外の懸案事項に柔軟・迅速に対応するため、2002年度からは組織の改編と体制強化も図り始めていますが、真に必要なのは、このような点に対する地域住民の方々の積極的な御参画です。

ここに、2001年度の琵琶湖博物館の活動の概要を取りまとめてみました。忌憚のない御意見や御批判を頂き、皆さんとともに博物館を作り上げて行きたいと考えています。どうか宜しく御指導・御協力をお願い申し上げます。

2002年7月1日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 川那部 浩哉

目 次

| | |
|--|-----------|
| ごあいさつ | 1 |
| I 博物館活動の概要 | 4 |
| 1 研究・調査活動 | 4 |
| (1) 科学研究費申請機関への登録 | 4 |
| (2) 総合研究 | 4 |
| (3) 共同研究 | 4 |
| (4) 専門研究 | 5 |
| (5) 公表された主な研究成果 | 6 |
| (6) 研究助成を受けた研究 | 6 |
| (7) 第4回琵琶湖博物館研究発表会 | 7 |
| (8) 研究最前線 | 7 |
| (9) 特別研究セミナー | 9 |
| (10) 研究セミナー | 9 |
| (11) 特別研究員の受け入れ | 11 |
| (12) 海外交流活動 | 11 |
| 2 交流・サービス活動 | 13 |
| (1) 観察会・見学会等 | 13 |
| (2) 博物館講座 | 14 |
| (3) 田んぼ体験教室 | 14 |
| (4) 里山体験教室 | 14 |
| (5) 質問コーナー・フロアトーク | 15 |
| (6) 教職員研修会 | 15 |
| (7) 博物館体験学習 | 18 |
| (8) 「体験学習の日」の活動 | 18 |
| (9) 家族を対象とした環境学習プログラム 「エコスクラム 水の旅」の活動 | 19 |
| (10) フィールドレポーター | 19 |
| (11) 夏休み相談室 | 20 |
| (12) 「よみがえれ！写真たち」(文部科学省委嘱「親しむ博物館づくり」) | 21 |
| (13) 「はしかけ」制度 | 21 |
| (14) 博物館実習 | 22 |
| (15) 来館者との交流会 | 23 |
| (16) 水族展示の交流 | 23 |
| 3 情報活動 | 25 |
| (1) 館内の情報センター(図書室・情報利用室) | 25 |
| (2) 通信網を利用した館外サービス | 25 |
| (3) 収蔵品データベースの整備 | 27 |
| (4) 画像情報システムの整備 | 27 |
| (5) 映像資料の貸し出し | 28 |
| (6) 資料整備 | 31 |

| | | |
|-----|---------------|----|
| 4 | 資料整備活動 | 32 |
| (1) | 収蔵資料 | 32 |
| (2) | 新規収集資料 | 35 |
| (3) | 資料の利用 | 41 |
| (4) | 燻蒸 | 42 |
| (5) | 資料評価委員 | 43 |
| 5 | 展示活動 | 44 |
| (1) | 企画展示 | 44 |
| (2) | 水族企画展示 | 49 |
| (3) | ギャラリー展示 | 49 |
| (4) | 水族トピック | 51 |
| (5) | 展示関連事業 | 51 |
| 6 | 印刷物 | 54 |
| II | 利用状況 | 56 |
| 1 | 2001年度入館者数 | 56 |
| (1) | 総入館者数 | 56 |
| (2) | 学校等入館者数 | 57 |
| (3) | 月別・曜日別入館者数 | 58 |
| 2 | 来館者アンケート調査結果 | 59 |
| 3 | 新聞掲載記録 | 61 |
| 4 | 雑誌等掲載記録 | 69 |
| 5 | テレビ放映・ラジオ放送記録 | 70 |
| III | 組織および運営 | 72 |
| 1 | 組織 | 72 |
| 2 | 職員 | 73 |
| 3 | 予算 | 76 |
| 4 | 滋賀県立琵琶湖博物館協議会 | 77 |
| IV | 博物館利用のご案内 | 78 |

※表紙の写真：企画展示「鯰～魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ～」の展示風景

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ないながら、その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の発信が魅力的であれば有るほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

特に琵琶湖博物館では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸職員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会による審査の結果、平成13年度は、以下の研究課題が実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究については申請専門研究として、研究審査委員会での審査を受けた。

(1) 科学研究費申請機関への登録

開館以後、働きかけを続けてきた文部科学省科学研究費申請機関への登録がされることになり、平成14年度に向けての申請を行なった。

(2) 総合研究

琵琶湖博物館の理念を実現することに直接に結びついた研究として、総合研究に取り組んだ。総合研究のテーマは、次の3件である。

- ①博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究（代表 八尋克郎）
- ②東アジアの中の琵琶湖—コイ科魚類の展開を軸とする一環境史に関する研究（代表 中島経夫）
- ③琵琶湖沿岸域の生物群集における生物間相互作用に関する研究（代表 アンドリュー・ロシター）

(3) 共同研究

個別の博物館のテーマにそって、博物館の内外の研究者と共同で行なった。

- ①琵琶湖集水域における中世村落確立過程の研究（代表 橋本道範）
- ②琵琶湖博物館における「ハンズ・オン」の効果とその意義（代表 芦谷美奈子）
- ③滋賀県における陸産貝類の分布に関する研究（代表 中井克樹）
- ④水利形態の詳細復元による地域環境史の総合的把握（代表者 脇田健一）
- ⑤滋賀県内の魚類分布調査および琵琶湖博物館収蔵魚類標本の充実（代表 藤本勝行）
- ⑥島の動物相の成立過程（代表 高橋啓一）
- ⑦「カワウ問題」解決に向けての生態学的アプローチ（代表 亀田佳代子）
- ⑧古代湖および海洋における魚類群構造（代表 アンドリュー・ロシター）

- ⑨烏丸半島における自然的環境・景観保全に関する研究（代表 中川元男）
- ⑩琵琶湖周辺域における過去1万年間の自然環境と人間環境の変遷（代表 宮本真二）
- ⑪東アジアにおける現生・化石淡水棲貝類に関する研究（代表 松田征也）
- ⑫堅田内湖における魚類の生態に関する研究（代表 桑村邦彦）
- ⑬南湖の富栄養化過程に沈水植物が及ぼす影響の解明（代表 芳賀裕樹）
- ⑭琵琶湖とその集水域における水生動物の寄生虫相に関する研究（代表 マーク・グライガー）
- ⑮琵琶湖堆積盆地の後期鮮新世約250万年前前後の古環境変化と古植生変化（代表 百原 新）
- ⑯琵琶湖の水生植物の種分化と生態分化（代表 山川千代美）
- ⑰田んぼにおける大型鰓脚類に関する研究（代表 マーク・グライガー）
- ⑱地球物理学的知見および住民参加型手法による琵琶湖地域の気象情報に関する民俗学的研究
(代表 板倉安正)

(4) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究を次のテーマで行なった。

<申請専門研究>

- ①房総半島の鮮新統三浦層群を主軸とした本州中央部の鮮新統に挟在する火山灰の広域対比
(里口保文)
- ②展示評価から博物館評価への展開（布谷知夫）
- ③琵琶湖等における外来生物（とくにブラックバス問題）に関する研究（中井克樹）
- ④植生と水質調節（草加伸吾）

<湖沼研究系>

- ①琵琶湖における繊毛類と藻類の共生関係について（楠岡 泰）
- ②魚類生物（アンドリュウ・ロシター）
- ③滋賀県産淡水貝類の生態学的研究（松田征也）
- ④博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究（戸田 孝）
- ⑤イバラモのシュート群動態と雌雄異株性に関する研究（芦谷美奈子）
- ⑥琵琶湖水系における伝統的資源利用とその変化（中藤容子）
- ⑦琵琶湖歴史環境の世界史的評価に関する研究（牧野久実）
- ⑧琵琶湖湖水中の溶存有機物、特に腐植酸とタンパク様物質の挙動の解明（芳賀裕樹）
- ⑨水域と陸域の相互作用における鳥類の役割に関する研究（亀田佳代子）

<集水域研究>

- ①大分県安心院盆地から産出した鮮新世の脊椎動物化石（高橋啓一）
- ②新生代の大型植物化石の研究（山川千代美）
- ③オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究（八尋克郎）
- ④歴史的環境保全とまちづくりに関する研究（牧野厚史）
- ⑤琵琶湖集水域における付着珪藻の分布について（大塚泰介）

⑥双翅目アシナガバエ科昆虫の系統分類と生物地理（榎永一宏）

<応用地域研究系>

①ほ場整備事業の環境に関する問題点と今後の事業のあり方の研究（内藤又一郎）

②日本産ナマズ3種の繁殖生態（前畑政善）

③近江の歴史の固有性と普遍性に関する考古学的研究（用田政晴）

④琵琶湖流域に適した水質保全施策に関する研究（中川元男）

⑤滋賀県に棲息するモクズガニの生態学的研究（桑村邦彦）

⑥琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの関係（桑原雅之）

⑦最終氷期以後における古環境変動の高精度復元（宮本真一）

⑧滋賀県における里山の保全と利用方法について（長崎泰則）

<博物館学研究系>

①淡水魚類の音響行動について（秋山廣光）

②甲殻類の系統分類学・海洋無脊椎動物の寄生虫・地下水動物に関する研究（マーク・グライガー）

③琵琶湖関係古文書に関する歴史的評価研究（橋本道範）

④地域の特性を生かした高校生物教材の研究（森田光治）

⑤博物館を利用した環境学習の教材作成（中川 修）

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

| 氏 名 | 現 職 |
|---------|--------------------|
| 秋 道 智 彌 | 国立民族学博物館民族社会研究部 教授 |
| 遠 藤 修 一 | 滋賀大学教育学部 教授 |
| 鳥 越 皓 之 | 筑波大学社会科学系 教授 |
| 原 田 英 司 | 京都大学名誉教授 |
| 横 山 俊 夫 | 京都大学人文科学研究所 教授 |
| 鷲 谷 いづみ | 東京大学農学生命科学研究科 教授 |
| 河 原 恵 | 滋賀県教育委員会学校教育課 主査 |
| 川那部 浩 哉 | 滋賀県立琵琶湖博物館 館長 |
| 重 野 良 寛 | 滋賀県立琵琶湖博物館 副館長 |

(5) 公表された主な研究成果

研究成果については、琵琶湖博物館研究業績第6号に収録したので、ここでは省略する。

(6) 研究助成を受けた研究

亀田佳代子

- ・第5回トヨタ先端科学技術研究助成プログラム「カワウ問題におけるIntegrated Ecological Economic Modeling構築の試み」、研究代表者

榎永一宏

- ・財団法人日本科学協会笹川科学助成「環境評価に関わる同定困難な水生双翅目昆虫の図解検索シス

テムの確立のための研究」、研究代表者

- ・藤原ナチュラルヒストリー振興財団「東アジアにおける海洋性アシナガバエの種分化と分散」、研究代表者
- ・岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所「タテハチョウ科群（アゲハチョウ上科）の系統発生的研究」、研究分担者

牧野久実

- ・文部科学省科学研究費補助金基礎研究A「イスラエル国ガラリヤ湖周辺地域の宗教文化に関する総合研究」、研究分担者

中島経夫

- ・奈良県田原本町「田原本町唐古・鍵遺跡共同研究」、研究分担者

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費補助金基礎研究A「イスラエル国ガラリヤ湖周辺地域の宗教文化に関する総合研究」、研究分担者

中井克樹

- ・文部科学省科学研究費創成的基礎研究（新プロジェクト）「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」湖沼研究班（バイカル湖）、研究協力者

(7) 第4回 琵琶湖博物館研究発表会

開館5周年記念事業の一環として実施した企画展示「鯰」のまとめとして、シンポジウム「魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」を研究発表会として開催した。（P46参照）

(8) 研究最前線

琵琶湖博物館では、33名の学芸職員がそれぞれの専門性をいかしながら、「湖と人間」についての研究を行っている。開館以来5年がたち、それぞれの研究やプロジェクトで成果をあげてきた。そこで開館5周年を記念して、琵琶湖博物館研究最前線として最新の研究成果を発表する研究紹介展示および連続講座を実施した。

研究紹介展示「琵琶湖博物館研究最前線」

それぞれの学芸職員の最新の研究成果を紹介するパネル展示コーナーを水族棟1階通路に設置した。



開館5周年記念連続講座「湖と人間」琵琶湖博物館研究最前線

博物館の3つの研究領域毎に、前期と後期に分けて以下の講座が開かれた。参加者は延べ568名であった。

前期日程

- | | | |
|-------|-------|---------------------------------------|
| 5月27日 | 川那部浩哉 | 琵琶湖の生物と文化の多様性 |
| | 高橋 啓一 | 太古の湖のほとりにいた獣たち |
| | 里口 保文 | 琵琶湖がとらえた過去の火山噴火 |
| 6月3日 | 榊永 一宏 | DNAから探る東アジアにおけるハエの進化 |
| | 中島 経夫 | 身近な環境の魚たちのおいたち |
| | 山川千代美 | 植物化石を調べてみたら |
| 6月10日 | 宮本 真二 | 最終氷期以降の気候・森・土地の変化と人類 |
| | 用田 政晴 | 城郭と港の歴史的関係 |
| | 牧野 久実 | 琵琶湖の伝統的木造船 |
| 6月17日 | 中藤 容子 | 漁具・漁法から探る水辺の生き物と人々のかかわり |
| | 橋本 道範 | 人間は魚とどのようにかかわってきたか 琵琶湖の魚撈、一千年の歴史を振り返る |
| 7月1日 | 嘉田由紀子 | 古写真比較による世界の湖沼 博物館での映像資料利用の試みとして |
| | 秋山 廣光 | 博物館における映像資料の保存と活用 |
| | 戸田 孝 | 電子情報ネットワークを利用した博物館活動 |
| 7月8日 | 布谷 知夫 | 博物館は地域とどのように結びつくか |
| | 芦谷美奈子 | ハンズオンでひろがる博物館 |
| | 八尋 克郎 | 博物館資料の役割 |
| 7月15日 | 中川 修 | 学校教育と博物館 |
| | 森田 光治 | 地域の特色を活かした生物教材の開発 |
| | 中島 経夫 | 博物館の研究とは |

後期日程

- | | | |
|-------|-----------|----------------------|
| 9月9日 | 芳賀 裕樹 | 琵琶湖の透明度にまつわる話 |
| | 戸田 孝 | 湖沼物理現象の感覚的理解を求め |
| | 中川 元男 | 琵琶湖の治水 |
| 9月23日 | 草加 伸吾 | 森林と琵琶湖 |
| | 長崎 泰則 | 樹木の病虫獣害 |
| | 中島 経夫 | 身近な環境の魚たち |
| 9月30日 | マーク・グライガー | たんぼにおける「エビ」の仲間の分布と幼生 |
| | 前畑 政善 | ナマズの産卵と水辺エコトーン |
| | 内藤又一郎 | 琵琶湖周辺の圃場整備と水田環境 |
| 10月7日 | 八尋 克郎 | 昆虫から見た琵琶湖集水域の自然 |

| | | |
|--------|--------------|------------------------------|
| | 秋山 廣光 | 魚の耳と音 |
| | 桑原 雅之 | ビワマスとサツキマス (アマゴ) |
| 10月14日 | 大塚 泰介 | 琵琶湖の珪藻とその暮らし |
| | 楠岡 泰 | 小さくても複雑, 繊毛虫の生態 |
| | 芦谷美奈子 | 琵琶湖の水草の多様性 |
| 10月21日 | 亀田佳代子 | 琵琶湖のカワウがになう役割 湖と森、そして人とのつながり |
| | 松田 征也 | 希少淡水貝類と移入淡水貝類の現状 |
| | 中井 克樹 | 琵琶湖の外来魚問題 |
| 11月28日 | 桑村 邦彦 | 琵琶湖の魚・漁・食 湖から食卓まで |
| | 牧野 厚史 | 水と人々の暮らし |
| | 矢野 晋吾 | 湖辺の環境変化と生活の変容 |
| 11月4日 | アンドリュース・ロシター | 世界の古代湖: タンガニイカ湖 |
| | 中井 克樹 | 世界の古代湖: バイカル湖 |
| | 嘉田由紀子 | 世界の湖と人々の暮らし 世界湖沼会議へのご案内 |

(9) 特別研究セミナー

- 第32回 (2001年5月9日 (水)) トーマス・ショルツ (Tomas Scholz) 氏 (チェコ科学アカデミー 寄生虫研究所) 「ラオスにおける生魚食により人に寄生した二生吸虫について (Fish-borne Trematode Infections of Humans in Laos)」
- 第33回 (2001年11月20日 (火)) ペグ・ケアッチ (Peg Koetsch) 氏 (Education Matters、スミソニアン国立自然史博物館) 「進化する博物館—博物館と学校のつながりを創る— (Museum-in-Progress—Constructing partnership between schools and museums—)」
- 第34回 (2002年1月22日 (火)) リン・D・ディアークィング氏 (ラーニング・イノベーション協会 副ディレクター、『博物館体験』著者)、嘉田由紀子氏 (京都精華大学、琵琶湖博物館研究顧問) 「博物館体験と人の記憶—人は博物館で何を体験するのか— (Museums and Memories —What does 'Museum Experience' mean?—)」

(10) 研究セミナー

毎月1回、研究セミナーを開催している。今年度の第1回は4月であったが、発表順番としては前年度の続きであったため、昨年度の年報で公表している。そのため、今年度の年報では、年度の第二回のセミナーにあたる5月の第二回から記録する。

第1回 (2001年5月18日)

- 布谷 知夫 「博物館資料としての情報 (博物館二次資料について)」
- 芳賀 裕樹 「滋賀県水試のデータに見る北湖の透明度の80年間の変化」
- 井戸本純一 「琵琶湖沿岸帯調査にみる貝類相の変化」

第2回 (2001年6月15日)

矢野 晋吾 「農外労働の理論的整理—生業複合論を踏まえて—」

高橋 啓一 「日本と台湾のゾウ化石に関する共同研究」

中島 経夫 「咽頭歯の個体発生から何が言えるか」

第3回 (2001年7月20日)

楠岡 泰 「ヨシ付着生物の浄化機能」

マーク・グライガー 「カイエビ類のノープリウス幼生について」

戸田 孝 「博物館のインターネット情報発信の実情から見えること」

第4回 (2001年8月17日)

八尋 克郎 「琵琶湖集水域および九州から出土した甲虫化石」

柁永 一宏 「日本産溪流性アシナガバエDiostracus属の生物地理」

里口 保文 「滋賀県伊吹町寺林に分布する山麓堆積物とその年代」

第5回 (2001年9月21日)

亀田佳代子 「琵琶湖とその周辺河川におけるカワウの食性比較」

牧野 厚史 「湖辺村落の水利構造と地域環境評価」

芦谷美奈子 「『ヨシ帯』研究の可能性を再考する (文献レビュー)」

第6回 (2001年10月20日)

山川千代美 「古琵琶湖層群産のシダ植物化石について」

牧野 久実 「キンネレット湖畔、エン・ゲブ遺跡の調査より」

用田 政晴 「歴史的町並の崩壊過程—線から面へ・近世城下町彦根の場合—」

第7回 (2001年11月9日)

大原 健一 「クローンギンブナのはなし」

桑垣 瑞 「砂防ダムは必要か」

第8回 (2001年12月21日)

橋本 道範 「近江中世村落の歴史的的位置—野洲郡兵主郷と安治村を中心として」

松田 征也 「木之本町におけるイシガイ科貝類の保全について」

中井 克樹 「海外にみる外来魚問題」

第9回 (2002年1月18日)

草加 伸吾 「森林伐採による硝酸形成と主要イオンの動態」

中川 元男 「琵琶湖の水位管理と湖岸堤」

桑原 雅之 「ミトコンドリアDNAの分析による早期遡上マスの判別」

第10回 (2002年2月15日)

前畑 政善 「ピワコオオナマズの産卵と環境要因について」

中川 修 「学校と博物館の連携」

内藤又一郎 「村のくらし」

第11回 (2002年3月15日)

宮本 真二 「遺跡の魚類遺体にみる日本列島主要淡水魚の分布変遷と人為」

アンドリュー・ロシター "A Study of Some Cichlid Fish Communities in Lake
Tanganyika"

森田 光治 「地域の特性を生かした生物教材の開発－博物館の生態観察池を利用した環境学習」
第12回（2002年4月19日）

秋山 廣光 「家族単位の小グループによる地域の自然観察活動の取組みについて
～nets(滋賀の水生生物研究グループ)の活動10年から～」

中藤 容子 「本館に収蔵する琵琶湖の漁獲データについて」

大塚 泰介 「音波探査機を用いた琵琶湖南湖の水草現存量の評価」

(11) 特別研究員の受入れ

- ・辻 彰洋（文部省特別学術研究員：滋賀県琵琶湖研究所）

2001年4月1日～2002年3月31日

テーマ：琵琶湖湖岸域における藻類組成の中期的変遷とそのメカニズムについて

- ・高橋 鉄美（科学技術振興事業団特別研究員）

2001年4月1日～2002年3月31日

テーマ：アフリカ産カワスズメ科魚類の系統分類学的研究

- ・大原 健一（日本学術振興会特別研究員）

2001年4月1日～2002年3月31日

テーマ：DNAを用いたギンブナの進化と多様化に関する研究

(12) 海外交流活動

1) 研究に関する国際交流

- ・川那部浩哉

2001年7月4日～7月17日 アイルランド デンマーク 生物多様性調査

2001年8月25日～9月1日 マレーシア 国際学会会議出席

- ・草加 伸吾

2001年8月22日～8月31日 モンゴル 森林とクスグス湖調査

- ・用田 政晴

2001年8月4日～8月24日 イスラエル トルコ 遺跡調査

2001年9月15日～9月22日 インド 遺跡調査

- ・高橋 啓一

2001年10月15日～10月23日 イタリア 国際会議出席

2001年10月28日～11月7日 中国 資料調査

- ・アンドリュー・ロシター

2001年11月29日～12月26日 南アフリカ 陸亀調査

- ・牧野 久実

2001年7月16日～8月24日 イスラエル トルコ 遺跡調査

・中井 克樹

2001年7月4日～7月13日 アメリカ 国際会議出席

・八尋 克郎

2001年9月23日～10月2日 フランス ポーランド 国際会議出席

・榎永 一宏

2001年5月14日～5月24日 台湾 昆虫調査

2001年7月11日～7月20日 韓国 昆虫調査

2) 事業部に関する国際交流

・布谷 知夫

2001年7月6日～7月13日 韓国 湖国21世紀記念事業関連用務

・牧野 厚史

2001年12月4日～12月8日 オランダ 標本返却

・アンドリュー・ロシター

2001年6月20日～6月30日 アメリカ 世界湖沼会議関連用務

2 交流・サービス活動

博物館の研究や資料収集などの成果をできるだけ多くの利用者に伝え、博物館をうまく有効に利用してもらうことで、博物館と利用者との双方向の情報交換と交流を行う場をつくり上げていくため、観察会・見学会や、体験教室、あるいは学校教育との連携のための教育研修の受入などさまざまな活動を実施した。

(1) 観察会・見学会等

2001年度は、博物館内や県内とその周辺で行う博物館観察会17件、博物館の舞台裏紹介などの博物館を見学する会2件の合計19件の事業を企画した。本年度は雨天等による行事の中止はなかった（各事業のタイトルや参加者数については下表参照）。

博物館が実施した観察会に対する参加者の評判はおおむねよかったが、テーマ・時期により応募者の人数に違いがでた。他方、応募者が集まりすぎて午前と午後の2回に分ける必要があるなど、担当者負担の増加が心配な観察会もでてきている。

博物館観察会・見学会

| 開催日 | タイトル | 場所 | 参加者数(人) |
|----------|--|------------|---------|
| フィールド観察会 | | | |
| 5月6日 | 朽木の春を訪ねよう | 朽木村役場駐車場 | 15 |
| 5月12日 | なまずの産卵観察会 ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 志賀町立図書館駐車場 | 24 |
| 6月3日 | 田んぼのミクロな生き物を調べよう ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 博物館実習室 | 28 |
| 6月17日 | 初夏の里山を歩こう | 大津市堅田周辺 | 35 |
| 7月15日 | 琵琶湖の魚は何を食べているか | 博物館実習室 | 6 |
| 7月29日 | 水辺の魚をつかんでみよう ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 大戸川 | 21 |
| 8月4日 | 遺跡とナマズ ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 生活実験工房 | 20 |
| 8月7日 | 回転実験室で水槽実験を！ | 博物館展示室C | 26 |
| 8月12日 | 湖辺の水草を調べてみよう ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 烏丸半島周辺 | 24 |
| 8月19日 | 水辺の貝を調べてみよう ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 博物館実習室 | 27 |
| 8月26日 | ミドリセンチコガネを探しに行こう | 栗東町荒張金勝寺 | 18 |
| 9月24日 | ナマズの料理を食べてみよう ＜5周年記念企画展「なまず(鯰)」連動企画＞ | 西浅井町菅浦 | 18 |
| 9月30日 | 化石採集会 | 県内 | 29 |
| 10月14日 | 菅山寺のブナ林をみる | 菅山寺 | 8 |
| 11月11日 | ビワマスの産卵を観察しよう | マキノ町知内百瀬漁協 | 4 |
| 12月16日 | 琵琶湖のミクロな生き物探検 | 博物館実習室 | 8 |
| 2月24日 | 花粉・火山灰の観察 | 博物館実習室 | 8 |
| 博物館見学会 | | | |
| 1月26日 | 民俗収蔵庫探検 | 企画展示室前 | 3 |
| 3月3日 | 水族展示の舞台裏 | 水族展示室 | 17 |

(2) 博物館講座

博物館講座は、学芸員が専門テーマについてわかりやすく解説するものと、特定の分野について専門的知識や技術を身につけたい方のための講座とにわけられている。後者は教員やアマチュアの研究者を対象として実施している。2001年度は、博物館講座が開館5周年記念連続講座として実施されたため開催しなかった。

(3) 田んぼ体験教室

博物館の生活実験工房および隣接する水田を利用した、1年間（全10回）の田んぼ体験教室を開催した。農作業の体験ばかりでなく、周辺の自然観察、そして田んぼの多面的な機能、そして冬には農家の仕事や生活も体験できるようプログラムを組んだ。

田んぼ体験教室開催日および内容（登録者11家族42名）

| 回 | 開催日 | 内容 |
|------|-----------|----------|
| 第1回 | 5月13日（日） | 全体説明と田植え |
| 第2回 | 6月24日（日） | 田の草取り |
| 第3回 | 7月22日（日） | 虫の話 |
| 第4回 | 8月19日（日） | かかし作り |
| 第5回 | 9月16日（日） | 縄緬い |
| 第6回 | 10月7日（日） | 稲刈り |
| 第7回 | 10月28日（日） | 脱穀 |
| 第8回 | 12月16日（日） | 餅つき |
| 第9回 | 1月20日（日） | わら細工 |
| 第10回 | 2月17日（日） | 試食とまとめ |



田植え



脱穀

(4) 里山体験教室

里山の重要性を見直すため、里山の手入れや暮らしを実際の活動を通じて体験する里山体験教室を下記により開催した。四季を通じて同じ里山で、計4回の手入れ作業とともに、山菜の試食会や昆虫、キノコの観察など五感を十分に使った体験活動を行った。なお、開催地は日野町大字上駒月である。

里山体験教室開催日および内容 (登録者21家族50名)

| 回 | 開催日 | 内 容 |
|----------|-------------|-------------|
| 里山体験(春編) | 4月30日(月・振休) | 「春の植物と山菜探し」 |
| 里山体験(夏編) | 7月29日(日) | 「虫から見た里山」 |
| 里山体験(秋編) | 10月28日(日) | 「木の実とキノコ」 |
| 里山体験(冬編) | 12月2日(日) | 「柴刈り体験」 |

(5) 質問コーナー・フロアトーク

当館では、開館当初から、“学芸員の顔が見える博物館”づくりを目指している。その一環として情報センターの図書室の一角に「質問コーナー」を設置している。開館日には、学芸職員が日替わりでここに常駐し、一般の方々からの質問に回答している。回答可能な質問には担当学芸職員がその場で答え、専門的な内容を含む質問については、それぞれの専門学芸職員が回答することになっている。また、館長および副館長も、学芸職員にまじって月一回程度、質問コーナーを担当している。受け付けた質問の内訳は別表の通り(表番号)。

なお、当コーナーでは、展示室の混雑が予想される土、日、祝日を除いて、学芸職員が来館者に展示解説を行う「フロアトーク」を1日1回実施している。「フロアトーク」を行うのは、当日の質問コーナーを担当する学芸職員である。

当コーナーでは、図書室入り口の壁に、質問コーナー担当学芸職員の予定を掲示している。来館者に担当学芸職員の専門分野と氏名を示すことにより、できるかぎり専門分野の担当者がある日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。この担当学芸職員の予定表は、ホームページにも掲載しており、インターネットで閲覧できるようになっている。

| | | | | | |
|--------------|-------------------------|----------|--------|--------|------|
| 期 間 | 2001年4月1日～2002年3月31日 | | | | |
| 総質問数 | 826件 | | | | |
| 質問内容 | 一般的な質問(総合案内で回答できるようなもの) | | | | 238件 |
| | 専門的な質問 | | | | 588件 |
| 対 応 | 担当学芸職員が対応 | | | | 592件 |
| | 専門学芸職員(または外部)に依頼 | | | | 234件 |
| 専門的な質問の内容の内訳 | | | | | |
| 生 物 | 動 物 | 魚 類 | 240件 | プランクトン | 13件 |
| | | その他の水生動物 | 87件 | 動物一般 | 59件 |
| | 植 物 | 陸上植物 | | | 31件 |
| | | 水生植物 | | | 29件 |
| 地 学 | 69件 | | 図 書 | 16件 | |
| 物 理 | 70件 | | 琵琶湖 | 17件 | |
| 歴 史 | 71件 | | 環 境 | 18件 | |
| 博 物 館 | 72件 | | その他の質問 | 19件 | |

(6) 教職員等研修会

2001年度に行われた教員等視察・研修は、合計73件（参加者：1,586人）であった。研修では、博物館の基本理念や展示概要のほか、総合的な学習などにおける学校の博物館の活用についての解説も行った。また、実習室等を使って展示に関わる体験学習も行った。

| 月 日 | 研 修 会 の 内 容 | 参加者数(人) |
|-------|-----------------------|---------|
| 4月26日 | 北海道開拓記念館文化振興会視察 | 36 |
| 4月27日 | エコ草津体験隊推進事業学校担当者研修 | 14 |
| 4月27日 | 総合教育センター職員研修 | 4 |
| 4月29日 | 兵庫県教育委員会視察 | 1 |
| 5月17日 | 滋賀県理科教育研究会総会 | 50 |
| 5月23日 | 大野町文化財保護協会視察 | 49 |
| 5月23日 | 福井県立自然史博物館視察 | 9 |
| 5月29日 | 滋賀県中学校特活部会研修 | 10 |
| 5月31日 | 栃木県今市市総合教育研究所視察 | 7 |
| 6月5日 | 滋賀県中学校理科部会研修 | 10 |
| 6月5日 | 群馬県生涯学習センター視察 | 2 |
| 6月6日 | 福岡県総務部国立博物館対策室視察 | 3 |
| 6月19日 | 石川県能美郡社会教育振興会視察 | 15 |
| 6月20日 | 中部ブロック4県教員視察 | 25 |
| 6月21日 | 観光連盟視察 | 22 |
| 6月22日 | 栗東町教育委員会視察 | 11 |
| 6月22日 | 竜王町社会教育推進員視察 | 25 |
| 6月22日 | 米国ミシガン州バーミンガム市派遣団視察 | 19 |
| 7月3日 | 尼崎市小学校長会視察 | 45 |
| 7月3日 | 茨城県教育委員会視察 | 8 |
| 7月11日 | 熊本市視察 | 4 |
| 7月14日 | 和歌山県川辺町校長会視察 | 15 |
| 7月14日 | 岸和田市教育委員会視察 | 50 |
| 7月25日 | 平野小学校教員研修 | 30 |
| 7月26日 | 名古屋市情報専門学校教職員研修 | 26 |
| 7月27日 | 草津市立常盤小学校研究講師視察 | 2 |
| 7月27日 | 西宮市立中学校社会科教育研究会研修 | 20 |
| 7月27日 | 湖南A地区県立市立高等学校初任者研修 | 11 |
| 7月27日 | 国際青少年育成交流事業 | 35 |
| 8月7日 | 理科教育講座 | 20 |
| 8月9日 | 松本市教育文化センター視察 | 1 |
| 8月21日 | 茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課視察 | 2 |
| 8月22日 | 栗東町小中学校教育研究会理科部会研修 | 20 |
| 8月22日 | 西宮市立総合教育センター中学校理科教育研修 | 10 |
| 8月23日 | 岐阜市中学校理科教員研修 | 51 |

| | | |
|--------|----------------------|-------|
| 8月24日 | 音羽中学校教員研修 | 12 |
| 8月25日 | 大阪教育大学技術教育研究グループ研修 | 10 |
| 8月28日 | 佐賀県立名護屋城博物館視察 | 2 |
| 8月28日 | 草津市教育委員会新任教職員研修 | 13 |
| 9月19日 | 兵庫県立歴史博物館視察 | 2 |
| 9月19日 | 福島県立博物館視察 | 2 |
| 9月20日 | 滋賀県総合教育センター教職経験者研修 I | 53 |
| 9月21日 | 高校理科教育研究会環境教育委員会研修 | 7 |
| 9月25日 | 滋賀県湖北ブロック派遣社会教育主事研修 | 12 |
| 9月28日 | 滋賀県総合教育センター教職経験者研修 I | 51 |
| 10月4日 | 滋賀県総合教育センター教職経験者研修 I | 50 |
| 10月5日 | 滋賀県総合教育センター教職経験者研修 I | 51 |
| 10月12日 | 全国環境学習フェア教員研修 | 230 |
| 10月16日 | 滋賀県小学校理科教育研究会研修 | 100 |
| 10月17日 | 中国湖南農業大学視察 | 7 |
| 10月20日 | 北九州市立自然史博物館視察 | 1 |
| 11月1日 | 今治市河野美術館視察 | 10 |
| 11月1日 | 全国理科教育センター物理部会研修 | 50 |
| 11月2日 | 全国理科教育センター物理部会研修 | 50 |
| 11月20日 | 大阪府中河内地区教育委員会視察 | 10 |
| 11月22日 | 草津市教育委員会研修 | 10 |
| 11月22日 | 米国ポンティアック市教育代表団視察 | 5 |
| 11月23日 | 兵庫県揖龍小中学校教頭会視察 | 22 |
| 11月27日 | 近畿通信高校家庭科教員研修 | 10 |
| 11月27日 | 近畿国立大付属中高理科部会研修 | 20 |
| 11月27日 | 練馬区教育委員会視察 | 5 |
| 11月30日 | 瀬戸内海歴史民俗資料館視察 | 1 |
| 12月4日 | 近畿付属学校理科部会視察 | 5 |
| 12月6日 | 徳島市連合小学校視察 | 31 |
| 12月12日 | 秋田県立博物館視察 | 3 |
| 2月1日 | 韓国初等中等教育教員視察 | 50 |
| 2月2日 | 御所浦町博物館基本構想計画検討委員視察 | 7 |
| 2月8日 | 延岡市立西小学校教員視察 | 1 |
| 2月19日 | 坂田郡教育研究会中学校理科部会研修 | 6 |
| 2月20日 | 宮崎市教育委員会文化振興課視察 | 1 |
| 3月8日 | 京都市教育委員会地域教育専門主事視察 | 3 |
| 3月12日 | 奈良県教育委員会生涯学習課県外研修 | 20 |
| 3月20日 | 国立科学博物館視察 | 1 |
| | 合 計 | 73件 |
| | | 1,586 |

(7) 博物館体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、フローティングスクール、エコ草津、体験学習の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

| 校 種 | 主 な 活 動 内 容 |
|-------|--|
| 小 学 校 | ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、昔のくらし体験、わら細工、餅つき、魚の採集（投網）と解剖、昔の水利用学習、魚のうろこ観察、野外植物観察、タヌキの生態、漁具、貝の観察、水草の観察、水鳥の観察、ナマズの観察、火山灰の観察、大地のつくり |
| 中 学 校 | 水質検査、プランクトンの観察と採集、化石のレプリカ、魚の採集（投網・釣り）と解剖、ヨシ笛、わら細工、水鳥の観察 |
| 高等学校 | 土壌の吸着実験、水質調査、プランクトンの採集と観察、魚の採集と解剖、珪藻化石の観察、透明度測定、土を用いた実験、生態観察池展示利用学習 |

| 校 種 | 活動学校数 | 活動人数(人) |
|-----------|-------|---------|
| 小 学 校 | 64 | 4,067 |
| 中 学 校 | 27 | 2,682 |
| 高 等 学 校 | 25 | 1,368 |
| 養 聾 盲 学 校 | 2 | 16 |
| 合 計 | 96 | 8,133 |

(8) 「体験学習の日」の活動

学校週5日制に対応する事業として、毎月第2・4週の土曜日に当館を訪れる小・中学生を対象に自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための活動を行った。

午後1時半～3時まで。大変好評で、年間768名の参加者をみた。

| 月 日 | テ ー マ | 参加人数(人) |
|--------|--------------------|---------|
| 4月14日 | 「春を感じてみよう」 | 20 |
| 4月28日 | 〃 | 31 |
| 5月12日 | 「琵琶湖のプランクトンを観察しよう」 | 20 |
| 5月26日 | 〃 | 27 |
| 6月9日 | 「投網体験をしてみよう」 | 30 |
| 6月23日 | 〃 | 30 |
| 7月14日 | 「標本を作ろう」(植物) | 32 |
| 7月28日 | 〃 (昆虫) | 51 |
| 9月8日 | 「はしかけさん担当プログラム」 | 30 |
| 9月22日 | (縄をなおう) | 30 |
| 10月13日 | 「ヨシ紙をつくろう」 | 42 |
| 10月27日 | 〃 | 15 |
| 11月10日 | 「木の実で遊ぼう」 | 27 |
| 11月24日 | 〃 | 36 |

| | | |
|--------|------------|-------|
| 12月8日 | 「鏡もちをつくろう」 | 8 5 |
| 12月22日 | 「しめ縄をつくろう」 | 3 5 |
| 1月12日 | 「化石に親しもう」 | 5 6 |
| 1月26日 | ” | 3 7 |
| 2月9日 | 「ワラ細工を作ろう」 | 2 8 |
| 2月23日 | ” | 2 8 |
| 3月9日 | 「ヨシ笛を作ろう」 | 3 3 |
| 3月23日 | ” | 4 5 |
| 参加人数合計 | | 7 6 8 |



プランクトンを観察しよう

(9) 家族を対象とした環境学習プログラム「エコスクラム 水の旅」の活動

県民の環境保全意識の高揚を図り、家庭における実践活動へとつなげていくため、家庭の日に関連させて、環境セミナー船を利用した体験型学習プログラムを実施し、家庭そろってのエコライフにつながる活動を行った。

| 月 日 | 体験学習の内容 | 参加人数(人) |
|--------|--------------------|---------|
| 6月17日 | 「初夏の里山を歩こう」 | 3 5 |
| 7月15日 | 「琵琶湖の魚は何を食べているのかな」 | 6 |
| 8月19日 | 「水辺の貝を調べてみよう」 | 2 7 |
| 12月16日 | 「ミクロな生き物探険」 | 7 |
| 参加人数合計 | | 7 5 |

(10) フィールドレポーター

フィールドレポーターとは、県内を中心に、身近な自然や生き物、あるいは地域の情報などを定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中で生かしていくとともに、情報を通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。この制度は1997年度からスタートし、2001年度は123名の登録者があった。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを決めて年数回行うアンケート型調査と、身近な情報を自由な形で随時報告してもらおう自由型調査を実施している。また、アンケート

型調査の結果を受けて交流会を開催したり、調査に先駆けての勉強会や、合同調査会なども適宜開催している。

2001年度は、アンケート型調査としては下記に示したように、「私の選んだ21世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ!!」と「身近な鳥を調べてみよう」の2回実施した。また、長期間にわたる調査として「ヘチマクラブ」を実施した。これは、参加者にヘチマの種を配布し実際に栽培を行いながら、観察記録や感じたことなどを随時報告してもらうとともに、最終的にはヘチマたわしの効用を実感してもらおうとするものであった。これらの調査で得られた情報は、「フィールドレポーター便り」としてとりまとめられ、フィールドレポーター交流会で報告された。特に、ヘチマクラブでは、夏の定例会でヘチマの栽培方法の勉強会と併せて試食会を実施し、秋の定例会ではヘチマたわしを実際に作成し、ヘチマたわしを使った食器洗いを体験した。他にも、2000年度に行った「ドングリを調べよう」の結果を受けて、4月29日(日)に守山で開催された植樹祭「地球市民の森づくり」で調査結果の公表と展示を行った。また、2001年11月に大津で開催された世界湖沼会議において、フィールドレポーター活動の概要を発表し、併せて平野小学校の生徒による外国人参加者に向けたヘチマアンケートを実施した。このアンケート結果については、フィールドレポーター便りで公表されているほか、平野小学校のホームページの中でも紹介されている。また、自由型調査で報告された内容は、「フィールドレポーター掲示板」としてまとめられ報告されている。2001年度は、6号の掲示板が発行された。これらの活動に関する作業等については、フィールドレポータースタッフと呼ばれる有志の方々によって行われている。

調査および活動実績 (2001年度)

| 調査内容 | 実施月 | 報告数(件) |
|-----------------------------------|-------------------|--------|
| 1) 私の選んだ21世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ!! | 5～6 | 50 |
| 2) 身近な鳥を調べてみよう | 11～12 | 313 |
| 3) ヘチマクラブ | 4～12 | 随時 |
| 4) 自由形調査(フィールドレポーター掲示板) | 通年 | 103 |
| 活動内容 | 実施月 | 回数 |
| 1) フィールドレポーター便りの発行 | 9・2 | 2 |
| 2) フィールドレポーター掲示板の発行 | 5・7・8・9・10・12・1・3 | 8 |
| 3) フィールドレポーター交流会 | 9・12・3 | 3 |
| 4) 植樹祭 | 4 | 1 |
| 5) ドングリの花観察会 | 5 | 1 |
| 6) 世界湖沼会議発表 | 11 | 1 |
| 7) ヘチマ突撃アンケート(平野小生徒による) | 11 | 1 |

(11) 夏休み相談室

子供たちの自然や地域に対する好奇心と、自主的な探求心を養うために、研究テーマの見つけ方から集めた標本の同定まで、夏休みの自由研究の支援を目的として、夏休み相談室を開催した。2001年は8月25日(土)、26日(日)の両日実施した。

夏休み相談室分野別相談件数

| | 動物 | 昆虫 | プランクトン | 植物 | 地学 | 環境 | 社会科学 | 歴史 | 合計 |
|-------|----|----|--------|----|----|----|------|----|----|
| 8月25日 | 2 | 1 | 2 | 3 | 8 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| 8月26日 | 4 | 4 | 2 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 20 |

(12) 「よみがえれ！写真たち」(文部科学省委嘱「親しむ博物館づくり」事業)

《目的》

最近、博物館において子どもたちからの質問が急増している。自分で調査をした経験がないために、問題を十分に整理しないまま専門家に質問し、もらったその答えを書き写すだけで、深まりがない学習を進めている現状がある。そこで、本事業では本当の意味の追求(調査)とはどういうものであるかを博物館と地域との協力の中で体験する機会とし、また博物館の資料収集活動についても考えるきっかけとすることを意図して実施した。

《事業の概要》

滋賀県各地の地域調査隊(子ども5名・大人1名)が古い写真を元に、そこに映る風景、人物やものなどを自分たちの視点で地域の人々と会話を持ちながら調べていく。その中でわかった地域の昔の姿や人々の暮らしの変遷、気づいた不思議なこと、あるいは新しい発見を発表交流会で相互に交流し、その後、調査の結果や過程をギャラリー展「写真のナゾとき大作戦ー子どもによる地域調査ー」で展示し、最後にアルバムとしてまとめた。

《参加者状況》

- ・地域調査 8/6～10/30 140人 (内訳 子ども115人 大人25人)
- ・発表交流会 11/18 116人 (内訳 子ども68人 大人48人)
- ・ギャラリー展交流会 12/24 32人 (内訳 子ども19人 大人13人)
- ・ギャラリー展 12/7～1/6 延べ4,309人 (内訳 子ども1,287人 大人3,022人)



交流会

(13) 「はしかけ」制度

「はしかけ」制度は、当館の活動に積極的に関わり、職員と共に館に活動を広げていく意志を持つ人々の登録制度である。2000年8月より登録を開始し、2001年度末には104名が登録されている。200

1年度末現在6つのグループ（体験学習の日、魚の会、田んぼの生き物調査、里山の会、中世探検隊、植物の会）がある。また、新たなグループを「はしかけ」さんが作ることも可能である。月に1回のペースで行事予定などに関するニュースレターが発行され、会員に届けられている。

はしかけ登録講座の実施日および参加者数

| | 実施日 | 参加者数(人) |
|---|-------|---------|
| 1 | 7月1日 | 9 |
| 2 | 11月4日 | 6 |
| 3 | 3月10日 | 15 |
| | 合計 | 30 |

(14) 博物館実習（期間：2001年8月1日（水）～8月8日（水）；ただし8月5日は休日）

国内10大学24名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念および活動方針と、それにもとづく交流サービス、情報、資料整備、展示等の活動について講義・実習を行った。特に、交流の場としての博物館活動を理解してもらうために、来館者との交流の担い手となる展示交流員体験や、利用者とともに常に成長・発展するための博物館評価としての来館者反応調査とその分析と発表も行った。博物館活動の基本的考え方の理解を確認し、学生と学芸職員との意見交換を行うため、最終日にはディスカバリーボックスの企画とその成果発表会を開催した。実習の日程および内容、参加者内訳は、下に示したとおりである。

なお、7日間以上の実習が必要な学生6名に対しては、実習期間を延長して10日間の実習を行った。

実習の日程および内容

| 月日（曜日） | 実習内容（午前） | 実習内容（午後） |
|---------|---|--|
| 8月1日（水） | <ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 博物館とはなにか？ | <ul style="list-style-type: none"> 博物館の設置理念と概要 館内・屋外展示案内 |
| 8月2日（木） | <ul style="list-style-type: none"> 展示の概要説明 A・B展示室見学 | <ul style="list-style-type: none"> C展示室見学 ディスカバリールーム見学 ディスカバリーボックス企画ガイダンス |
| 8月3日（金） | <ul style="list-style-type: none"> 接遇研修 展示交流員体験 | <ul style="list-style-type: none"> 展示交流員体験 |
| 8月4日（土） | <ul style="list-style-type: none"> 来館者反応調査 | <ul style="list-style-type: none"> 来館者反応調査結果まとめ、発表 |
| 8月5日（日） | <ul style="list-style-type: none"> 休日 | |
| 8月6日（月） | <ul style="list-style-type: none"> 博物館資料概要説明 動物資料について 植物資料について | <ul style="list-style-type: none"> 民俗資料について 植物資料について |
| 8月7日（火） | <ul style="list-style-type: none"> 交流活動の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 博物館の情報システム 博物館の画像資料 博物館の図書資料 |
| 8月8日（水） | <ul style="list-style-type: none"> ディスカバリーボックス制作発表準備 | <ul style="list-style-type: none"> ディスカバリーボックス制作発表会 終了式 |

参加者内訳

| 所属 | 人数 | 所属 | 人数 |
|---------|----|---------|----|
| 滋賀県立大学 | 5 | 九州大学 | 1 |
| 成安造形大学 | 5 | 京都外国語大学 | 1 |
| 京都橘女子大学 | 4 | 京都府立大学 | 1 |
| 京都教育大学 | 3 | 神戸大学 | 1 |
| 追手門学院大学 | 2 | 徳島大学 | 1 |
| 合 | | 計 | 24 |

(15) 来館者との交流会

来館者の動向を把握するため、お盆期間中（8月12日（日）～18日（土））の観覧時間を午後7時まで延長するとともに、「夕暮れの博物館を楽しもう」をテーマに以下の事業を企画・実施した。

1) 「たそがれコンサート～西田幹と仲間たちジャズライブ～」

日時：2001年8月21日（日）18:00～

会場：アトリウム

出演：西田幹（バストロンボーン）、北沢りか（フルート）、浜川潮（ピアノ）、
上羽康史（ベース）

2) 魚の楽しい話と餌やり

日時：2001年8月12日（日）～18日（土）18:00～

会場：水族展示コーナー

3) お気に入り展示をさがそう（小学生のみ）

日時：2001年8月12日（日）～18日（土）17:00～19:00

会場：図書・情報利用室



コンサート



えさやり

(16) 水族展示の交流

水族展示では水族飼育員が直接来館者に展示生物の説明を行う水族展示交流を、トンネル水槽、水辺の鳥たちおよび古代魚の水槽において行った。トンネル水槽においては、水族飼育員が水槽に潜水

し、展示交流員と水中マイクを使って会話をしながら、魚の解説や水圧の実験などを行った。水辺の鳥たちの水槽では、カイツブリに給餌を行い、潜ってえさをとるようすやそのための体のつくりなどを解説した。古代魚の水槽では、チョウザメやガーパイク、ヘラチョウザメにえさを与え、それぞれのえさの違いやそれにもなう食べ方の違いなどの解説を行った。2001年度は、トンネル水槽において10回、水辺の鳥たちの水槽で13回、古代魚の水槽で12回の交流活動を実施した。

3 情報活動

琵琶湖博物館は、コンピュータ技術を活用し、情報拠点として機能できる基本情報システムの完成をめざしている。来館者向け閲覧用図書の整備や映像情報のデジタル化と研究支援を図り、地図情報や文字情報を合わせた検索や利用ができるよう努めた。また、通信網を通じて博物館利用者や類似施設とのネットワーク化を進めた。

(1) 館内の情報センター（図書室・情報利用室）

図書室と情報利用室を来館者が自由に利用できるように整備している。両室は隣接させて互いに往来できるように設置し、かつ利用案内カウンターを共通にし、更に学芸職員による質問コーナーを設け利用者の有機的な学習の場としている。

1) 図書室

単行本約8,200冊、および雑誌約72タイトルを開架式で閲覧できるようにした。なお来館者の要望に応じて、閉架式資料も利用できるようにしている。また、コピーサービスを行い、利用の便宜を図っている。

2) 情報利用室

情報端末を利用者自身が操作することにより、常設展示室の体験ソフトのほか、約200タイトル以上のビデオライブラリーや博物館の案内を利用できるようにした。なおシステムは、動画情報、静止画情報、地図情報、文字情報と多種にわたる情報をデジタル化して一元的管理を行うことにより、利用者の側からは、メディアの違いをこえて、同一端末、同一画面からの検索や利用が可能となるようなシステムになっている。

(2) 通信網を利用した館外サービス

来館者や遠隔地の人からの情報の受信や、博物館からの発信、つまり双方向の情報交換を充実するために、次の3つのシステムを運用している。

1) ファックス・サービス

各家庭のファックスから電話回線で接続して操作することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信することができる。2001年度のアクセス件数は下表のとおりであった。

ファックス情報提供サービスへのアクセス件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 総アクセス数 | 39 | 34 | 19 | 21 | 42 | 22 | 25 | 18 | 11 | 9 | 4 | 26 |
| 目次アクセス数 | 17 | 16 | 9 | 14 | 26 | 11 | 12 | 7 | 4 | 6 | 3 | 14 |

総アクセス数：サーバーから情報が取り出された件数

目次アクセス数：「総アクセス数」のうち、目次ページへのアクセス件数（通常、目次ページで目的とする情報の所在を確認した後、改めてサーバーに接続してその情報を取り出す。）

2) ホームページ

インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を受信したり、博物館資料の検索を行ったりすることができる。また、インターネット・メールで専門的な内容についての質問を受け付けている。2001年度のアクセス件数は下表のとおりであった。

インターネットページ（静的サーバー）へのアクセス件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総ヒット数 | 328,485 | 427,455 | 410,454 | 445,509 | 578,506 | 432,668 | 461,541 | 406,961 | 302,924 | 413,114 | 377,495 | 378,376 |
| 連続アクセス | 15,516 | 18,517 | 19,581 | 20,113 | 26,579 | 22,334 | 25,205 | 22,972 | 19,199 | 23,417 | 22,211 | 22,198 |
| 表紙アクセス | 1,266 | 1,459 | 1,408 | 1,590 | 1,989 | 1,371 | 1,402 | 1,421 | 906 | 1,265 | 1,171 | 1,345 |

- ・総ヒット数：サーバに対するすべての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）。各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる。
- ・連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは、合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）。
- ・表紙アクセス「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセス件数
- * 「エリア・キャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再利用している場合は、合わせて1件しか計数されない。

インターネットページ（動的サーバー）へのアクセス件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-------|-------|-----|
| セッション数 | 182 | 203 | 202 | 183 | 302 | 179 | 214 | 239 | 161 | 273 | 198 | 164 |
| 絞込検索回数 | 362 | 390 | 424 | 394 | 473 | 283 | 431 | 394 | 279 | 558 | 320 | 222 |
| データ閲覧件数 | 1,051 | 881 | 817 | 885 | 1,145 | 790 | 1,102 | 633 | 893 | 2,454 | 1,481 | 336 |

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合

- * 博物館内部からのアクセスは計数していない

[インターネットページで案内している宛先へのメール受付状況]

全部で365通のメールがあり、情報センター担当者またはメール内容に応じた学芸職員が回答した。メールの内容は以下のようなものであった。

| 内 容 | 件数 |
|---------------------------|-----|
| 専門的内容についての問い合わせ | 163 |
| 施設利用・行事についての問い合わせ | 44 |
| 館に関する情報提供あるいは連絡など | 34 |
| リンク許可依頼・登録依頼など | 31 |
| 展示内容や館の運営についての意見・感想など | 22 |
| 印刷物・出版物についての依頼・問い合わせ | 16 |
| 採用についての問い合わせ | 14 |
| 個人あてメッセージ | 12 |
| 施設の運営状況（入館者数など）についての問い合わせ | 10 |
| 画像使用の許可依頼など | 7 |
| ホームページの内容について意見・感想など | 6 |
| 視察および特別な見学についての問い合わせ | 4 |
| 調査依頼・撮影依頼など | 2 |
| 合 計 | 365 |

3) 電子交流システム（パソコン通信）

各家庭のパソコンを電話回線を通じて博物館のシステムに接続することにより、博物館への質問や身のまわりのできごとに関する報告を書き込んだり、他の参加者の質問などに対応して議論したりすることができる。1999年より旧来型のパソコン通信からインターネットを経由して接続できるシステムへと移行した。

(3) 収藏品データベースの整備

当館では収藏品（図書、文献、刊行物、地質標本、生物標本、歴史資料、静止画情報、動画情報など）がどのような状態で保管されているのかをデータベースを利用して管理しているとともに、学術的な情報とあわせて、著作権、利用権など、配付や利用にかかわる情報もあわせて管理している。情報センターでは、各データベースを資料整備活動で利用するための環境整備を行うとともに静止画・動画データベースの入力・管理を行った。これまでに魚類標本、魚類電子図鑑、トンボ電子図鑑をインターネットで公開した。

(4) 画像情報システムの整備

実物資料の収集整理と並んで、画像情報の収集整備にも力を入れており、収藏品の写真や標本採集地点の写真などとあわせて、写真そのものを収藏品として扱い、琵琶湖や環境や生活文化の変遷などを伝える古い写真の収集、入力、管理を行った。特に、滋賀県在住の故前野隆資氏の写真を中心とした「昭和写真史」の整備がほぼ完成し、「災害、写真でみる生活史」として一部インターネットで公開した。また、水環境の変遷に関する写真では、撮影場所（地図）と写真と文字情報をセットで管理するシステムの開発も行い、「水環境カルテ」としてインターネットで公開した。

(5) 映像資料の貸し出し

静止画(写真)資料については、教育・文化・報道・広報目的の利用について、その貸出を行っている。2001年4月1日～2002年3月31日までの利用状況は、110件で内訳は下表のとおりであった。

| 承認日付 | 貸出先 | 用途 | フィルム内容 | フィルム点数 | 備考 |
|-------|------------------|---------------------|-------------------|--------|-------------|
| 4月1日 | 山と溪谷社 | 図鑑用 | 魚類 | 1 | |
| 4月13日 | 京都大学総合人間学部 | 雑誌用 | 寄託(環境系) | 28 | デジタル対応 |
| 4月18日 | (株)エム・シー・アンド・ピー | 雑誌用 | 魚類 | 1 | フィルム |
| 4月19日 | アルスール編集室 | 雑誌用 | 魚類、水生生物、漁撈 | 12 | デジタル対応 |
| 4月19日 | (有)ユープリント | パンフ | 魚類 | 2 | Webからダウンロード |
| 4月21日 | (財)河川情報センター | 広報誌 | 魚類 | 1 | デジタル対応 |
| 4月21日 | 水のめぐみ館アクア琵琶 | 広報誌 | 環境 | 1 | 転載 |
| 4月24日 | (株)ジェイワークス | TV放送 | 環境 | 2 | 撮影 |
| 4月27日 | 養父町 | 常設展示 | 魚類 | 1 | フィルム |
| 5月1日 | (株)新興出版社啓林館 | 教科書副読本 | 魚類 | 3 | Webからダウンロード |
| 5月8日 | 読売新聞大阪本社科学部 | 新聞掲載 | 寄託(環境系) | 1 | デジタル対応 |
| 5月14日 | NHK番組制作局ハイビジョン展開 | TV放送 | 展示CG | 1 | デジタルダビング |
| 5月21日 | 水のめぐみ館アクア琵琶 | 広報誌 | 魚類 | 1 | フィルム |
| 5月26日 | 日本放送協会 番組制作局 | TV放送 | 魚類 | 4 | フィルム |
| 5月29日 | 滋賀県農政水産部 | 広報誌 | 寄託(環境系) | 5 | デジタル対応 |
| 5月29日 | 講談社 | 雑誌 | 魚類 | 1 | フィルム |
| 5月29日 | (社)農山漁村文化協会 | 雑誌用 | 寄託(環境系) | 1 | 転載 |
| 5月29日 | 大津市立 唐崎小学校 | 教材用 | 寄託(環境系) | 1 | プリント |
| 6月8日 | 明治図書出版(株) | 教科書副読本 | 環境 | 5 | フィルム |
| 6月8日 | 滋賀県土木交通部 | 広報誌 | 寄託(環境系) | 3 | プリント |
| 6月14日 | 滋賀県議会事務局 | 議員セッション用 | 湖 | 6 | デジタル |
| 6月23日 | 浜島書店 | 教科書副読本 | 魚類 | 3 | フィルム |
| 6月23日 | 滋賀県農政水産部 | 広報誌 | オリジナルポスター | 1 | デジタル |
| 7月4日 | びわこ銀行 | 広報誌 | オリジナルポスター より魚類 | 5 | 転載 |
| 7月6日 | (株)ワークスコーポレーション | 著作者利用 | 図録デザイン | | 撮影 |
| 7月11日 | 滋賀県広報課 | 広報誌 | オリジナルポスター | 1 | デジタル |
| 7月11日 | 龍谷大学短期大学部 | 教材 | 企画展用ビデオ作品 | | VHS |
| 7月16日 | (有)テラ | 世界湖沼会議発表資料 | 寄託(環境系) | 2 | デジタル |
| 7月16日 | 亀岡市教育委員会 | 企画展展示・図録など | 魚類 | 18 | プリント |
| 7月16日 | 滋賀県琵琶湖環境部 | 広報資料 | 魚類 | 6 | 転載 |
| 7月18日 | みどり絵本の企画舎 | 湖国21世紀記念事業 カルタ制作 | 寄託(環境系) | 2 | デジタル |

| | | | | | |
|--------|----------------------|-----------------|----------------------|----|-------------|
| 8月8日 | 滋賀県琵琶湖環境部 | 湖沼会議パンフレット用 | 寄託(環境系)、魚類 | 14 | プリント |
| 8月8日 | 海の中道海洋生態科学館 | 広報パネル用 | 魚類など | 8 | フィルム |
| 8月2日 | 勉誠出版(株) | 書籍用 | 寄託(環境系) | 1 | プリント |
| 8月2日 | 滋賀県土地改良事業団体連合会 | 展示解説用 | 魚類 | 22 | プリント |
| 8月2日 | NHK衛星ハイビジョン | TV放送 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 8月2日 | 日本テレビ | TV放送 | 企画展用ビデオ作品 | | VHS |
| 8月2日 | (財)河川情報センター | 広報誌 | 魚類 | 30 | デジタル |
| 8月2日 | 国土交通省中国地方整備局 | 教材用 | 魚類 | 4 | Webよりダウンロード |
| 8月31日 | 水資源開発公団 | パンフレット用 | 魚類解説文 | 2 | テキスト |
| 8月31日 | サンライズ印刷(株) | 書籍用 | 企画展資料 | 5 | デジタル |
| 9月1日 | 琵琶湖工事事務所 | インターネットページ素材用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 9月7日 | 湖国21世紀記念事業協会 | イベント用 | 魚類 | 29 | デジタル |
| 9月13日 | (財)河川情報センター | 世界水フォーラムパンフレット用 | 図版・魚類 | 15 | デジタル |
| 9月13日 | 滋賀県琵琶湖環境部 | 世界湖沼会議展示用 | 寄託(環境系) | 4 | デジタル |
| 9月13日 | びわ湖を守る水環境保全県民運動 | 広報誌用 | 貝類、湖沼 | 27 | デジタル |
| 9月29日 | (財)河川情報センター | 広報誌用 | 魚類 | 1 | 貸出資料の転用 |
| 10月6日 | 守山市立河西公民館 | 展示用 | 魚類など一式 | | 環境教育教材 |
| 10月6日 | 守山市立教育研究所 | 教材用 | 魚類、企画展 | 10 | デジタル |
| 10月16日 | 八日市市教育研究所 | 教科書副読本用 | 魚類 | 25 | デジタル |
| 10月16日 | 湖東地域振興局田園整備課 | 展示解説用 | 魚類 | 6 | Webよりダウンロード |
| 10月24日 | 亀岡市役所 | 展示解説用 | 魚類 | 11 | 環境教育教材1式として |
| 10月25日 | 昭和堂 | 書籍用 | 寄託(環境系) | 6 | デジタル |
| 10月26日 | (株)しがぎん経済文化センター | 広報誌 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 10月26日 | 国土交通省近畿地方整備局 | 教材用 | 魚類など | 8 | デジタル |
| 10月26日 | パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 | パンフレット用 | 魚類 | 1 | Webよりダウンロード |
| 10月26日 | 滋賀県土木交通部河港課 | パンフレット用 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 10月26日 | 千丈川 蜚見の会 | 文化祭展示用 | 魚類 | 7 | 環境教育教材より |
| 10月29日 | サンライズ印刷(株) | 21世紀記念事業印刷物用 | 寄託(環境系)、魚類、オリジナルポスター | 29 | デジタル |
| 10月31日 | (株)フォト・オリジナル | 教科書副読本用 | 魚類など | 3 | フィルム |
| 11月1日 | 滋賀県琵琶湖環境部 | 湖沼会議ポスター用 | 魚類 | 6 | デジタル転載 |
| 11月6日 | 八日市市教育研究所 | 教材用 | 寄託(昆虫写真) | 2 | デジタル |
| 11月9日 | 滋賀県琵琶湖環境部 | 国際水環境フォーラムプレゼン用 | 寄託(環境系) | 2 | デジタル |
| 11月9日 | 全国農業協同組合連合会 滋賀県本部 | 広報誌用 | 企画展資料 | 1 | デジタル |
| 11月12日 | (財)琵琶湖淀川水質保全機構 | 湖沼会議展示用 | 湖沼 | 9 | デジタル |
| 11月13日 | 毎日新聞大津支局 | 報道取材 | 魚類 | 1 | デジタル |

| | | | | | |
|--------|------------------|------------|-----------------------|----|-------------|
| 11月15日 | 滋賀県広報課 | 県広報誌用 | オリジナルポスター | 1 | デジタル |
| 11月26日 | 守山市教育研究所 | 教材用 | 魚類 | 5 | デジタル |
| 11月27日 | (株)エトレ | 県広報誌用 | 鳥類、魚類 | 12 | デジタル |
| 11月27日 | 東京法令出版(株) | 教科書副読本用 | 魚類、漁撈 | 3 | デジタル |
| 11月28日 | 三重県環境部自然環境課 | 県広報誌用 | 魚類写真 | 2 | プリント |
| 11月3日 | 東京書籍(株) | 教師用指導書用 | 化石 | 6 | デジタル |
| 12月3日 | 志賀町教育委員会 | 町史発行用 | 微生物 | | デジタル |
| 12月7日 | NHK大津放送局 | TV放送用 | 寄託（環境系） | 3 | 撮影 |
| 12月8日 | (株)週刊釣りサンデー | 学芸員執筆記事用 | 魚類 | 45 | デジタル |
| 12月8日 | 岩波書店 | 雑誌用 | 寄託（環境系） | 2 | デジタル |
| 12月1日 | (有)オフィスルーチェ | 教科書副読本用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 12月18日 | 守山市教育研究所 | 教材用 | 寄託（環境系）、魚類 | 5 | デジタル |
| 12月18日 | (株)光文社 | 書籍用 | 魚類など | 46 | デジタル |
| 12月18日 | 守山市教育研究所 | 教材用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 12月19日 | 国土交通省 出雲工事事務所 | 広報用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 12月27日 | (有)ティーボックス | ポスター用 | 漁船 | 2 | デジタル |
| 1月3日 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 国土交通省内部資料用 | 魚類 | 4 | デジタル |
| 1月9日 | 東近江地域振興局建設管理部 | 計画書用 | 魚類 | 17 | デジタル |
| 1月14日 | うおの会 | 冊子用 | 魚類 | 4 | デジタル |
| 1月15日 | 滋賀県 環境政策課 | 冊子用 | オリジナルポスター、 水生昆虫、魚類 | 4 | デジタル |
| 1月15日 | (株)エム・シー・アンド・ピー | 広報用 | 魚類 | 3 | デジタル |
| 1月18日 | (有)ヴィップス | 図鑑用 | 化石 | 2 | デジタル |
| 1月18日 | 東京書籍(株) | 教師用指導書用 | 魚類 | 6 | デジタル |
| 1月22日 | 湖北地域振興局環境農政部 | 冊子用 | 魚類 | 8 | 転載 |
| 1月22日 | 朝日放送報道情報局 | 報道用 | 寄託（環境系） | 2 | Web上撮影 |
| 2月5日 | 甲賀地域振興局環境農政部 | 冊子用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 2月5日 | 守山市教育研究所 | 教材用 | 寄託（環境系） | 3 | デジタル |
| 2月6日 | 京都府企画環境部環境企画課 | 教材用 | 魚類など | 18 | デジタル |
| 2月13日 | びわ湖を守る水環境保全県民運動 | 広報誌用 | 魚類 | 11 | デジタル |
| 2月15日 | 豊中市立桜井谷東小学校 | 教材用 | 研究報告 | 1 | 転載 |
| 2月21日 | (株)平凡社 | 雑誌用 | 寄託（環境系） | 6 | プリント |
| 2月21日 | 三推社 FENEK 編集部 | 雑誌用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 2月26日 | 亀岡市役所 | 冊子用 | 魚類 | 1 | デジタル |
| 3月1日 | (株)日本河川協会 | 広報誌用 | 寄託（環境系）、湖写真 | 3 | Webよりダウンロード |
| 3月1日 | (株)映光 | 教材用 | 環境 | 1 | デジタル |

| | | | | | |
|-------|----------------|------|-------------------|----|------|
| 3月5日 | 長浜み～な編集室 | 冊子用 | 寄託（環境系） | 2 | 流用 |
| 3月11日 | （助）滋賀総合研究所 | 雑誌用 | 寄託（環境系） | 4 | 転載 |
| 3月13日 | （助）鹿児島県環境技術協会 | 図鑑用 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 3月13日 | 滋賀県環境政策課 | Web用 | 魚類、オリジナルポスター、水生昆虫 | 4 | デジタル |
| 3月18日 | 国土交通省 福山工事事務所 | 冊子用 | 魚類 | 12 | デジタル |
| 3月18日 | 滋賀県立水環境科学館 | 展示用 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 3月2日 | デジタルソリューション(株) | 冊子用 | 魚類 | 2 | デジタル |
| 3月28日 | 志摩マリンランド | 展示用 | 魚類 | 6 | フィルム |

(6) 資料整備

情報活動との関連が特に密接な図書・文献資料および映像資料について、下表のとおり整備した。
 なお、動画資料の資料数が急増したのは、これまで仮保管していた資料の整理を緊急雇用対策事業の一環として行った成果を反映したものである。

図 書

(単位：冊)

| 区 分 | 2001年度実績 | 累 積 数 |
|-----------------------|----------|--------|
| 購 入 図 書 | 1,007 | 19,001 |
| 図 書 デ ー タ ベ ー ス 登 録 数 | 4,032 | 40,792 |

* 寄贈提供図書受入数 2,034 (2001年度実施)

文 献

(単位：件)

| 区 分 | 2001年度実績 | 合 計 |
|-----------------------|----------|--------|
| 文 献 デ ー タ ベ ー ス 登 録 数 | 1,764 | 25,129 |

雑 誌

(単位：件)

| 区 分 | 2001年度実績 | 合 計 |
|--------------|----------|-------|
| 国内の機関が発行する雑誌 | 1,102 | 1,454 |
| 国外の機関が発行する雑誌 | 352 | |

映 像 資 料

(単位：点)

| 区 分 | 2000年度までの合計 | 2001年後実績 | 合 計 |
|---------------|-------------|----------|--------|
| 動 画 資 料 | 447 | 1,116 | 1,563 |
| 静 止 画 資 料 | 66,962 | 1,550 | 68,512 |
| (合 計) | 67,409 | 2,666 | 70,075 |
| デ ジ タ ル 化 点 数 | 67,254 | 912 | 68,166 |

4 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものであり、自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収集は、博物館職員による採集、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって行われ、収蔵資料は必要ときに速やかに利用できるよう、各資料区分ごとの体系にしたがって整理し、長期間にわたり安全で良好な状態に保てるよう保管している。さらに収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

以下に2001年度の資料整備について項目ごとにまとめた（映像資料、図書資料は除く）。

(1) 収蔵資料

2001年度末現在の収蔵概数および登録資料数は、分野ごとに下表のとおりとなった。

なお、登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とはさまざまな段階の未整理資料の概数である。

【地 学】

1) 地学標本

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|--------|--------|--------|-----------------------------|
| 化石 | 20,100 | 16,066 | ・登録726件（大分県安心院産の化石類（共同研究）等） |
| 岩石・鉱物 | 4,200 | 3,158 | ・登録215件 |
| 堆積物 | 600 | 21 | ・長期保存のための加工 |
| プレパラート | 400 | 191 | ・登録47件（富田コレクション） |
| 小計 | 25,300 | 19,436 | |

【植 物】

1) 植物標本

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|--------|---------|--------|---|
| さく葉標本 | 141,535 | 61,410 | ・標本配架8,961点 ・登録点数8,131点 ・資料目録「植物標本1 桑島正二植物標本目録」刊行 |
| 水草樹脂包埋 | 57 | 0 | |
| 菌類 | 108 | 0 | |
| 小計 | 141,700 | 61,410 | |

【動物】

1) 動物標本（液浸標本を除く）

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|--------|--------|--------|---|
| 昆虫乾燥標本 | 58,100 | 20,507 | <ul style="list-style-type: none"> ・標本作製3,973点 ・登録点数7,006点 ・資料目録「蜻蛉研究会コレクション(2)」刊行 |
| 貝類標本 | 9,500 | 0 | |
| 骨格標本 | 143 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・一覧リスト作成終了 |
| 剥製など | 101 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・一覧リスト作成終了 |
| 魚類樹脂包埋 | 10 | 10 | |
| 小計 | 67,854 | 20,517 | |

2) 液浸標本

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|-------------|---------|--------|--|
| 魚類（液浸以外も含む） | 60,089 | 35,133 | <ul style="list-style-type: none"> ・登録5,905件 ・ソーティング、ラベル添付、収納整理 ・アルコール・ホルマリン液点検 ・魚類データベース公開中 |
| 水生昆虫 | 27,100 | 4,977 | <ul style="list-style-type: none"> ・登録4,977件 ・収納整理作業4,537本 ・参照標本作成3本 ・アルコール液点検・補充26,200本 ・ソーティング、同定、ラベル添付および修正 ・データベース完成 |
| 貝類 | 10,500 | 9,443 | <ul style="list-style-type: none"> ・登録4,955件 ・ソーティング2,044点 ・データラベル添付および修正約2500点 ・収蔵箇所変更作業約5,000点 ・アルコール液点検・補充約10,000本 |
| 甲殻類など | 3,835 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規収蔵770本 ・同定480本 |
| プランクトン | 1,500 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・標本整理 ・仮収蔵番号付与 |
| 植物 | 640 | 180 | |
| 両生・爬虫類 | 150 | 0 | |
| 土壌等調査資料 | 500 | 0 | |
| 小計 | 104,314 | 49,733 | |

【歴史・民俗】

1) 考古資料

| | 収蔵概数(箱) | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|------------|---------|-------|---------------|
| 県内遺跡出土品 | 1,319 | 0 | |
| ガリラヤ湖関係出土品 | 3 | 0 | |
| 小 計 | 1,322 | 0 | |

2) 民俗資料

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|-----------|-------|-------|--|
| 県内の生活生業用具 | 6,600 | 3,970 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料写真撮影100点 ・収集時民具カード整理 ・新データベースのための資料カード作成5,100点 ・防錆等保存処理80点 ・ギャラリー展览展示132点 |
| 県内の木造船模型 | 22 | 0 | |
| 外国の湖沼の船 | 4 | 0 | |
| 小 計 | 6,626 | 3,970 | |

(*旧登録データベースによる登録資料数)

3) 歴史資料

| | 収蔵概数(件) | 登録資料数(件) | 2001年度整理・公開内容 |
|------------|---------|----------|---------------|
| 古文書・絵図・絵画等 | 143 | 0 | ・調書作成整理60点 |

【環 境】

1) 環境資料

| | 収蔵概数 | 登録資料数 | 2001年度整理・公開内容 |
|---------|------|-------|---------------|
| 体験学習用民具 | 556 | 0 | ・一覧リストの再作成 |
| 展示用生活用具 | 25 | 0 | |
| 水環境調査資料 | 72 | 0 | |
| 展示用製作物 | 48 | 0 | |
| 小 計 | 701 | 0 | |

【水族資料】

| | 収蔵概数 | 登録資料数 |
|----------|--------|-------|
| 水族資料(生体) | 19,238 | — |

【収蔵資料まとめ】

| | | 収蔵概数 | 登録資料数 |
|----------|---|---------|---------|
| 地 | 学 | 25,300 | 19,436 |
| 植 | 物 | 141,700 | 61,410 |
| 動 | 物 | 172,168 | 70,250 |
| （内訳）乾燥標本 | | 67,854 | 20,517 |
| 液浸標本 | | 104,314 | 49,733 |
| 歴史・民俗 | | 8,091 | 3,970 |
| （内訳）考古資料 | | 1,322 | 0 |
| 民俗資料 | | 6,626 | 3,970 |
| 歴史資料 | | 143 | 0 |
| 環 | 境 | 701 | 0 |
| 水 | 族 | 19,238 | — |
| 合計 | | 367,198 | 155,066 |

(2) 新規収集資料

2001年度には以下のとおり資料収集が行われた。

1) 採集資料

館員や研究プロジェクト、フィールドレポーター、はしかけ制度による収集が以下のとおり行われた。

【植物】 果実 2点 桑垣 瑞

植物さく葉標本 2点 桑垣 瑞

【動物】 貝類液浸・乾燥標本 4点 松田征也

貝類液浸標本 49点 松田征也

貝類液浸標本 6点 中井克樹

貝類液浸標本 399点 フィールドレポーター「田んぼの生き物調査」

甲殻類液浸標本 1点 八尋克郎

昆虫液浸標本 489点 楠岡 泰（共同研究「屋外」）

節足動物液浸標本 1点 マーク・グライガー

ヒル類液浸標本 1点 八尋克郎

無脊椎動物液浸標本 2点 秋山廣光

無脊椎動物液浸標本 233点 楠岡 泰（共同研究「屋外」）

無脊椎動物液浸標本 1点 楠岡 泰

無脊椎動物液浸標本 1点 うおの会

寄生虫液浸標本 1点 楠岡 泰

魚類液浸標本 167点 佐藤智之・山田康幸（共同研究「魚類分布」）
魚類液浸標本 36点 長田智生（共同研究「魚類分布」）
魚類液浸標本 19点 橋本 禪（共同研究「魚類分布」）
魚類液浸標本 9点 山田康幸（共同研究「魚類分布」）
魚類液浸標本 2点 亀田佳代子
魚類液浸標本 320点 松田征也
魚類液浸標本 2点 矢野晋吾
魚類乾燥咽頭齒 53点 亀田佳代子
魚類乾燥咽頭齒 5点 中井克樹
魚類乾燥咽頭齒 140点 中島経夫
魚類乾燥顎骨 1点 亀田佳代子

2) 寄贈資料

【民俗】 飾り皿 1点、香合 2点 加藤 庄（京都市）
【考古】 陶質土器 2点 中条二三四（栗東市）
【植物】 植物さく葉標本 1,600点 建部満里子（摂津市）
【動物】 水生昆虫トビケラ類模式標本 9点 西本浩之（小牧市）
日本産蝶類標本 465点 桐村信行（宇治市）
【地学】 鉱物標本 16点 中沢和雄

3) 提供資料

【民具】 足踏式揚水車 1点 北川 栄（草津市）
【環境】 スクモ製の炭団 1袋 疋田忠夫（八日市市）
【植物】 植物さく葉標本 1点 小西昌子（草津市）
植物さく葉標本 1点 田村 実（大阪市立大学理学部附属植物園）
植物さく葉標本 1点 馬場玲子（(財)琵琶湖淀川水質保全機構）
植物さく葉標本 1点 八尋由佳ほか（守山市）
植物さく葉標本 1点 石田志朗（京都市）
菌類 1点 田辺祥子（大津市）
果実 1点 田辺祥子（大津市）
【動物】 貝類液浸・乾燥標本 13点 酒井治己（下関水産大学校）
貝類液浸・冷凍標本 4点 布久保吉男（湖南漁港）
貝類液浸標本 723点 建設技術研究所
貝類液浸標本 4点 出口武洋（大津市）
貝類液浸標本 1点 中山晴司（玉津小津漁協）
貝類液浸標本 8点 佐藤智之（守山市）
貝類液浸標本 1点 本多和夫（平安神宮）
貝類乾燥標本 4点 石橋 亮・古丸 明（三重大学生物資源学科）

昆虫乾燥標本 1点 佐田友香 (近江八幡市)
 昆虫乾燥標本 1点 出口武洋 (大津市)
 昆虫乾燥標本 4点 松野 実 (甲西町)
 昆虫乾燥標本 109点 石田未基 (栗東市)
 昆虫乾燥標本 23点 大谷ウイリアム (水口町)
 昆虫乾燥標本 2点 津田國史 (守山市)
 昆虫乾燥標本 163点 藤本勝行 (大津市)
 昆虫乾燥標本 1点 野口比佐江 (大津市)
 昆虫乾燥標本 9点 柴栄康雄 (大津市)
 昆虫乾燥標本 10点 上原千春 (大津市)
 昆虫乾燥標本 181点 杉野由佳 (守山市)
 昆虫乾燥標本 1点 谷口夏世 (信楽町)
 昆虫乾燥標本 1点 渡邊康子 (大津市)
 昆虫乾燥標本 1点 武田恵理子 (朽木村)
 魚類液浸標本 39点 秋山信彦
 魚類液浸標本 2点 石田未基 (栗東市)
 魚類液浸標本 1点 遠藤真樹・木戸裕子・濱口浩之・藤本勝行 (大津市)
 魚類液浸標本 1点 遠藤真樹 (大津市)
 魚類液浸標本 1点 長田芳和 (大阪教育大学)
 魚類液浸標本 456点 大原健一 (草津市)
 魚類液浸標本 18点 木戸裕子・濱口浩之 (草津市)
 魚類液浸標本 45点 滋賀県琵琶湖文化館
 魚類液浸標本 2点 滋賀県水産試験場
 魚類液浸標本 1点 杉村光俊 (高知県中村市)
 魚類液浸標本 65点 高橋さち子 (大津市)
 魚類液浸標本 153点 高橋鉄美 (大津市)
 魚類液浸標本 434点 高橋芳明 (和歌山市)
 魚類液浸標本 33点 濱口浩之 (草津市)
 魚類液浸標本 255点 福井県立大学
 魚類液浸標本 16点 安田智博
 魚類液浸標本 59点 安田智博・濱口浩之
 魚類液浸標本 754点 柳原正英 (東京都)
 魚類乾燥咽頭齒 11点 生津恵子 (草津市)
 染色骨格標本 93点 高橋さち子 (大津市)

4) 購入資料

【地学】 滋賀県産鉱物資料 16点

長鼻類化石標本 12点

【動物】 日本オサムシ類標本 182点

淡水・汽水産貝類標本 一式

外国産イシガイ類標本 一式

【歴史】 伏見宮旧蔵 花園院宸記 5巻

愛知川上之手御普請ノ図 1舗

瀬田川自普請組合村絵図 1舗

近江国栗太郡橋本村磯田家文書 1,600点

5) 水族繁殖魚類

2001年度主な繁殖魚類

| | 学名 | (尾) |
|-----------|---------------------------------------|-----|
| 日本産 | | |
| コイ科 | | |
| ホンモロコ | <i>Cnathopogon caerulescens</i> | 400 |
| ヒナモロコ | <i>Aphyocypris chinensis</i> | 470 |
| カワバタモロコ | <i>Hemigrammocypripis rasborella</i> | 29 |
| モツゴ | <i>Pseudorasbora parva</i> | 150 |
| ウシモツゴ | <i>Pseudorasbora pumira subsp.</i> | 150 |
| イチモンジタナゴ | <i>Acheilognathus cyanostigma</i> | 490 |
| タナゴ | <i>Acheilognathus melanoguster</i> | 58 |
| カネヒラ | <i>Acheilognathus rhombeus</i> | 14 |
| アカヒレタビラ | <i>Acheilognathus tabira subsp. R</i> | 80 |
| ゼニタナゴ | <i>Acheilognathus typus</i> | 313 |
| カゼトゲタナゴ | <i>Rhodeus sinensis atremius</i> | 124 |
| ニッポンバラタナゴ | <i>Rhodeus ocellatus smithi</i> | 338 |
| ミヤコタナゴ | <i>Tanakia tanago</i> | 100 |
| ドジョウ科 | | |
| ホトケドジョウ | <i>Lefua echigonia</i> | 39 |
| メダカ科 | | |
| メダカ | <i>Oryzias latipes</i> | 315 |
| トゲウオ科 | | |
| ハリヨ | <i>Gasterosteus microcephalus</i> | 340 |
| ムサシトミヨ | <i>Pungitius pungitius subsp.</i> | 117 |
| ハゼ科 | | |
| アオバラヨシノボリ | <i>Rhinogobius sp. BB</i> | 510 |
| スズキ科 | | |
| オヤニラミ | <i>Coreoperca kawamebari</i> | 35 |

| 外国産 | | |
|--------------------|-------------------------------------|-----|
| コイ科 | | |
| ノーザン・ファットヘッドミノウ | <i>Pimephales promelas promelas</i> | 314 |
| パールダニオ | <i>Brachydanio albolineatus</i> | 500 |
| メダカ科 | | |
| ランプリクティス・タンガニカヌス | <i>Lamprichthys tanganicanus</i> | 200 |
| カワスズメ科 | | |
| ジュリドロミス レガニ | <i>Julidochromis regani</i> | 105 |
| ネオランプローガストレットケファルス | <i>Neolamprologustretocephalus</i> | 172 |
| ネオランプローガス オケラータス | <i>Neolamprologus ocellatus</i> | 60 |
| サンフィッシュ科 | | |
| パンプキンシードサンフィッシュ | <i>Lepomis gibbosus</i> | 21 |
| ロングイヤーサンフィッシュ | <i>Lepomis megalotis peltastes</i> | 34 |
| 昆虫類 | | |
| ゲンゴロウ | <i>Cybister japonicus</i> | 33 |

(3) 資料の利用

1) 資料の貸出

2001年度には、以下のとおり資料の貸出を行った。

| 貸出資料 | 貸出先 | 期間 |
|-------------------|---|-----------------|
| 【植物】 | | |
| 植物さく葉標本 191点 | 大阪市立自然史博物館 | 2001.9.18~10.31 |
| 【地学】 | | |
| 化石標本 38点 | エコ旅フェスタ（湖国21世紀記念事業協会） | 2001.9.27~10.30 |
| 【動物】 | | |
| 魚類樹脂包埋標本 30点 | エコ旅フェスタ（湖国21世紀記念事業協会） | 2001.9.27~10.30 |
| トンボ幼虫・成虫模型 2点 | エコ旅フェスタ（湖国21世紀記念事業協会） | 2001.9.27~10.30 |
| モンゴル産大型鯉脚類液浸標本 4点 | Christopher Rogers （Jones & Stokes、アメリカ） | 2002.1.15~7.15 |
| ゴカイ標本 2点 | Chris Glasby （ノーザン・テリトリー博物館アートギャラリー、オーストラリア） | 2002.2.7~8.7 |
| ハリガネムシ液浸標本 20点 | Andreas Schmidt-Rhaesa （ビーレフェルト大学、ドイツ） | 2002.1.12~7.12 |

| | | |
|-------------------|--------------|----------------------|
| 【歴史・民俗】 | | |
| 鯉のレプリカ 2点 | 西堀榮三郎記念探検の殿堂 | 2001.9.1～11.26 |
| 料理レプリカ 14点 | 食の祭典（県農政課） | 2001.10.24～10.30 |
| 紙本着色 大日本国図屏風 6曲1隻 | 滋賀県立近代美術館 | 2001.10.24～11.30 |
| 【水族】 | | |
| ワタカ 10点 | 名古屋港水族館 | 2001.12.10～2002.2.10 |

2) 資料の譲与

2001年度には、以下の通り資料の譲与を行った。

- 【水族】 ヒナモロコほか水族資料 40尾 越前松島水族館
グッピーほか水族資料 100尾 あやめ池遊園地
カワムツほか水族資料 12尾 松井 章（奈良文化財研究所）
ワタカ 20尾 虹の森公園おさかな館
ハリヨ 30尾 宮津エネルギー研究所水族館
ヒナモロコ40尾 大原健一
カネヒラ 50尾 水産総合研究センター養殖研究所
アオバラヨシノボリ 20尾 千歳サケのふるさと館
- 【動物】 ゴカイ標本 1点 Chris Glasby（ノーザン・テリトリー博物館アートギャラリー、オーストラリア）

3) 特別観覧許可

2001年度には、以下のとおり特別観覧の許可を行った。

- ・C展示室 淡水魚類、昭和30年代の富江家、水環境カルテなど、B展示室 漁具（オオギ・モンドリなど） 撮影 農山漁村文化協会

(4) 燻 蒸

資料に付着する害虫（成虫・卵・蛹）および黴等、資料の保存上、有害な生物の殺虫防除を目的に、収蔵庫燻蒸および燻蒸庫燻蒸を以下のとおり行った。

・収蔵庫燻蒸

実施日 2001年9月2～6日

対象 植物収蔵庫、民俗収蔵庫1・2、環境収蔵庫、考古収蔵庫

・燻蒸庫燻蒸

実施日 2001年6月25～27日、11月12～14日、2002年3月5～7日、3月8～10日

対象 植物さく葉標本、民俗資料、昆虫乾燥標本、貝類標本、鳥類剥製など

・小型燻蒸庫燻蒸

実施日 2001年12月11～14日、2002年3月26～29日

対象 植物さく葉標本など

(5) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

5 展示活動

2001年度は、下記の企画展示、水族企画展示、ギャラリー展示、トピックス展示を開催した。

(1) 企画展示

2001年度は、当館の開館5周年にあたるため、企画展示プロジェクトチームを組織し、5周年記念企画展示（第9回企画展示）「鯰—魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ—」、およびシンポジウム「魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」を開催した。

5周年記念企画展（第9回企画展）「鯰—魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ—」

会期：2000年7月20日（金：祝）～11月25日（日）（開館日数109日）

場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料：大人900円（700円）、大学・高校生700円（550円）、小・中学生450円（350円）

（ ）内は20名以上の団体料金 ただし、常設展示観覧を含む

総観覧者数：合計46,995人（最大入場者：1,102人 8月15日）

展示内容：

ナマズの仲間(ナマズ目魚類)は世界に2000種以上が生息し、淡水域で最も繁栄しているグループであり、古くから人々の注目を集めてきた。例えば、世界的にみて古くはエジプト第5代王朝の高僧アクティヘテップの墓石に「サカサナマズ」が刻まれ、中国前漢期の馬王堆第1号漢墓の彩色絹絵に「ナマズ」が登場する。一方、日本でも各地の縄文遺跡から「ナマズ」の骨が発掘されているし、室町期の”瓢鮎図”では禅問答の対象として、また江戸期の”鯰絵”には風刺画の主役として登場する。また、我が国では「ナマズ」と言えば、必ずと言っていいほどに「地震」との関連が取沙汰されるようである。

本展では、このように古くから人々の関心を集めてきた「ナマズ」が持つ不思議な力を解きほぐしつつ、知られているようで案外知られていないナマズ類の分布、生態、形態について琵琶湖にすむナマズ科魚類3種に焦点をあてて解説する。また、併せて過去30～40年間における琵琶湖の水辺移行帯（水辺エコトーン）の急激な変貌がナマズを含めた多くの魚類のみならず、湖辺にすむ住民の生活や文化に与えた影響についても紹介した。

展示は以下の3部から構成される。

第1部：人が見たナマズ（鯰のイメージ）

主な展示資料：鯰絵各種(江戸期)と鯰絵紙芝居、古書（湖中産物図証、湖魚考、近江水産図譜など）、瓢鮎図（写真複製）、大津絵、鯰の飾り皿、地層の剥ぎ取り標本、鯰の北進など

第2部：生き物としてのナマズ—水と陸を往復する魚—（鯰の生態）

主な展示資料：世界最古のナマズ科化石、日本産ナマズ2種の産卵(VTR映像)、アフリカ・マラウイ湖の子育てナマズ(VTR映像)、古琵琶湖層出土のピワコオオナマズ化石、Fauna Japonica(復刻版)、シーボルトが持ち帰ったナマズ標本、ピワコオオナ

マズ大型模型、ナマズ類産卵生態剥製、ナマズ類骨格標本、世界のナマズ類の分布図、ナマズ類の系統図など

第3部：水辺移行帯(エコトーン)の変貌

主な展示資料：水辺移行帯で使用される漁具（日本・韓国・中国）、水田地帯の魚類(液浸標本)、水路にやってくる魚類（剥製）、鯰祭、泥鰌祭（VTR映像）、鯰料理、バチカルポンプ、水車、水路実物模型、水辺エコトーンの変貌（写真）、田舟、バスポートなど

関連事業

本企画展関連事業は、開催の前年度と当該年度の2カ年に亘って実施され、展示解説書の発行（A4版164ページ、発行部数；1000部）やシンポジウムも含め合計13件が開催された。

1) ナマズ学入門「田んぼでナマズの産卵を観察しよう」：内藤、牧野、宮本、矢野、前畑

- ・期 日：2000年5月27日（土）18:30～20:00
- ・場 所：志賀町の水田地帯
- ・募集定員20名に対して60余名の応募があり、抽選にて24名を選定。

2) ナマズ学入門（パート1）：牧野、宮本、矢野、前畑

- ・募集定員20名、参加登録者19名、実質受講者は平均16～18名/日。
- ・会 場：琵琶湖博物館セミナー室および生活実験工房
- ・期 日：2001年2月～3月

| 開催期日 | 時 間 | 内 容 | 担 当 者 |
|----------|-------------|----------------|-------|
| 2月4日（日） | 14:00～17:00 | ナマズの生態 | 前畑 |
| 2月18日（日） | 14:00～15:30 | ナマズー見る、捕る、食べるー | 牧野 |
| 3月4日（日） | 14:00～15:30 | ナマズは東日本にはいなかった | 宮本 |
| 3月18日（日） | 14:00～17:00 | ナマズの試食会 | 前畑、矢野 |

3) 水族企画展示『おもしろナマズ大発見』：井戸本

- ・会 期：2001年7月20日（金）～9月30日（日）
- ・会 場：琵琶湖博物館水族企画展示室

4) 観察会「ナマズの産卵観察会」：前畑、牧野、内藤、宮本

- ・期 日：2001年5月12日（土）18:00～20:00
- ・場 所：志賀町小野の水田地帯
- ・参加者：応募数80余名あり、抽選の結果26名（10家族）の参加

5) バイオテレメトリー実験

- ・講 師：京都大学農学研究科海洋生物環境学分野 坂本 亘 氏、院生数名
- ・期 日：2001年8月21日（月）～26日（日）13:00～15:00
- ・場 所：水族展示の古代魚水槽
- ・内 容：チョウザメに超音波発信器を装着し、その動きを受信装置にて追跡できる様子を来館

者に解説した。

6) 観察会『湖辺の水草を調べてみよう』：芦谷、前畑

- ・期 日：2001年8月12日（日）9:30～12:00
- ・場 所：烏丸半島周辺
- ・参加者：約20名

7) ナマズ学入門（パート2）

| 開催期日 | 時 間 | 内 容 | 担 当 者 |
|-------|-------------|-------------------|-------|
| 6月9日 | 14:00～15:00 | 輪中地帯におけるナマズ食とその変化 | 中藤 |
| 6月9日 | 15:15～16:15 | 水路とナマズ | 内藤 |
| 7月21日 | 14:00～15:30 | 企画展示について | 前畑 |

8) 観察会『ナマズの料理を食べてみよう』：牧野、矢野

- ・期 日：9月24日（月・休）11:00～15:00
- ・場 所：西浅井町菅浦
- ・参加者：18名

9) 琵琶湖博物館開館5周年シンポジウム『魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ』

- ・期 日：2001年10月18日（木）～19日（金）
- ・会 場：琵琶湖博物館ホール
- ・参加者：一般から150名公募し、18日：180名、19日：181名参加
- ・目 的：開館5周年企画展「鯰」のまとめとして、秋篠宮親王殿下同妃殿下をお迎えし、シンポジウムを開催した。

本シンポジウムは、企画展の総まとめとして研究者ばかりでなく、住民、行政などさまざまな立場の人びとが集い、生物としてのナマズ類（ナマズ目）のもつ不思議な魅力やその多様性について語り、生物（ナマズ）と文化（人々のくらし）の多様性の接点を探り、その中から、琵琶湖の「ナマズ」の産卵場所でもある田んぼをはじめとする水辺エコトーンの今後の保全について討論し、さまざまな課題を抽出することをめざした。

・プログラムの概要

10月18日（木）

開会・挨拶(知事)

第1部 ”鼎談：鯰の魅力”

①話題提供： ”漁・食・祭” 安室 知（熊本大学）

②鼎談：秋篠宮文仁親王殿下、秋道智彌（国立民族学博物館）、川那部浩哉（琵琶湖博物館）

10月19日（金）

第2部 ”鯰からみた文化の多様性”

①「ナマズはどのように描かれてきたかー本草学から鯰絵までー」北原糸子（東洋大学）

- ②「ナマズの東進と人間活動－遺跡の魚類遺体から－」宮本真二（琵琶湖博物館）
- ③「文化の中のナマズ－メコンとニューギニアの事例から－」秋道智彌（国立民族学博物館）
- ④「ナマズ紳士録－ナマズ類にみる多様性－」小早川みどり（九州大学）
- ⑤「鯰の多様な生態とすみ場所－東アフリカ・マラウィ湖から－」

佐藤 哲（世界自然保護基金日本委員会）

第3部 総合討論 “鯰から見た田んぼのゆくえ”

- ①「ナマズはなぜ田んぼをめざすのか？」前畑政善（琵琶湖博物館）
- ②「ナマズ、そして農民と湖、漁民と水田」大槻恵美（関西大学）
- ③討 論 北村 孝（守山市木浜自治会）、北村 勇（守山漁業協同組合）、
泉 峰一（滋賀県農村整備課）、藤岡康弘（滋賀県水産課）
司 会：牧野厚史（琵琶湖博物館）

10) 世界湖沼会議・琵琶湖ルームへの本展紹介パネルの出版

- ・期 日：2001年11月11日（日）～11月15日（木）
- ・会 場：ピアザ淡海（大津市）
- ・内 容：本展の展示内容について、写真貼付パネルにて紹介。

11) 世界湖沼会議・研究発表（ポスターセッション）

- ・期 日：2001年11月14日（水）
- ・会 場：大津プリンスホテル（大津市）
- ・内 容：展示内容を3部にわけて、主に写真を使って紹介した。

12) 創作人形劇「魔女っこひょっこりちゃん 湖へ行く」

- ・演 者：人形劇団 にんたま（8人）
- ・期 日：2001年11月18日（日）午後2：00～2：30
- ・会 場：琵琶湖博物館アトリウム
- ・観覧者数：約200名
- ・内 容：魔女っこ学校1年生になったばかりのひょっこりちゃんは、誰かのために魔法を使いたくてうずうずしています。そんなとき、偶然出会った男の子、翔くと琵琶湖へ繰り出しますが？オオナマズくんと競演が見物でした。

13) 防災指導車・グランド号による防災体験

- ・期 日：2001年11月23日（金）午後1：30～3：00
- ・会 場：琵琶湖博物館前ロータリー
- ・内 容：湖南広域行政組合西消防署による防災体験で、地震体験車を使って2軸式油圧起振装置により国内で過去に発生した代表的な地震を再現し、博物館に来館した一般の方を対象にリアルな地震体験を行ってもらった。

その他

本企画展に展示した資料またはその関連資料3件5点の当館への寄贈があった。

1) 田舟(タブネ) 1点

寄贈者: 畑 源 (草津市 船幸造船経営)

2) 陶芸資料 3点 (鯉の飾り皿 1点、香合 2点)

寄贈者: 加藤 庄 (京都市 陶芸家)

3) 化石関連資料 1点

寄贈者: 森 繁 (香川県 小学校教諭)

<参考資料>

・観覧者数

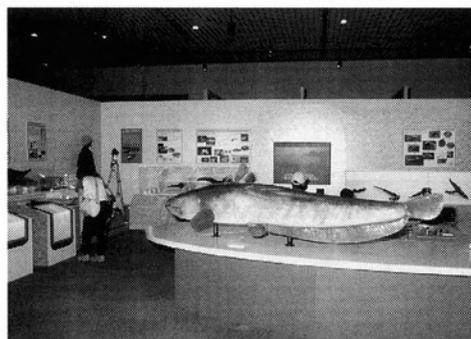
| 月 | 開館日数 | 有 料 | | | 無 料 | 合 計 |
|-----|------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | | 小 中 | 高 大 | 一 般 | | |
| 7月 | 10日 | 858 | 80 | 2,791 | 282 | 4,011 |
| 8月 | 28日 | 3,848 | 532 | 9,070 | 460 | 13,910 |
| 9月 | 23日 | 823 | 274 | 3,903 | 1,451 | 6,451 |
| 10月 | 26日 | 2,448 | 302 | 3,708 | 7,031 | 13,489 |
| 11月 | 22日 | 1,566 | 295 | 3,480 | 3,793 | 9,134 |
| 合 計 | 109日 | 9,543 | 1,483 | 22,952 | 13,017 | 46,995 |

・会議開催状況

- 1999年度
- ・館内打合せ 27回
 - ・資料調査(出張) 5回
 - ・館長協議 3回
 - ・業者打合せ 1回
 - ・外部委員打合せ 1回
 - ・学芸会議報告 1回
 - ・基本設計説明会/マネージメント会議/基本設計ヒヤリング等各 1回
- 2000年度
- ・館内打合せ 26回
 - ・資料調査(出張:海外含む) 17回
 - ・業者打合せ 8回
 - ・外部委員打合せ 4回
 - ・学芸会議報告 1回
 - ・企画展関連学会発表など 3回
- 2001年度
- ・館内打合せ 8回
 - ・資料調査(出張) 17回
 - ・業者打合せ 8回
 - ・外部委員打合せ 7回
 - ・シンポジウム打合せ 3回



企画展示入り口



企画展示内部

(2) 水族企画展示

第10回「おもしろナマズ大発見 -さまざまな姿と習性-」

会期：2001年7月20日（金）～9月30日（日）

常設展示観覧券で入場

ナマズは、そのふしぎな姿と行動から日本人にはたいへんなじみの深い魚であるにもかかわらず、その実態については意外にしられていない。ナマズ目魚類は、日本の川や湖にも8種類が生息するが、世界に目を向けるとその数は2400種類をこえ、魚類のなかでももっとも繁栄しているグループの一つとなっている。さらに、その形態や習性は極めてバラエティーに富んでおり、生物進化のふしぎを示す好例を提供してくれる。

本展示では、開館5周年記念企画展示「鯰-魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ-」と連動して、世界のナマズ目魚類の生態展示を行った。また、あえて生息地や分類といった従来型の展示区分にとらわれず、形態や習性でグループ分けした展示を行い、さらに解説板をクイズ仕立てにすることによって、生物をじっくり観察するおもしろさを体験してもらえるように工夫した。

第11回「滋賀のカメたち」

会期：2002年3月21日（祝・木）～2002年5月19日（日）

常設展示観覧券で入場

童話や童謡にも登場するカメは、そのユーモラスな姿からか、子どもたちはもとより多くの人から愛されてきた。ところが、カメたちが暮らす水辺の環境は変化し、種類によっては絶滅も心配されている。また最近では、ペットとして外国から輸入されたカメたちが、心ない飼い主によって川や湖へ捨てられることが多くなっている。

本展示では、生きものたちと人との関係について考えてもらうことを目的として、滋賀県内に生息するカメ類の生態展示とともに、カメたちの生活のようすや人との関係、世界のさまざまなカメたちを写真パネル等で紹介した。

(3) ギャラリー展示

「鉱物化石展～湖国の大地に夢を掘る」

主催：湖国もぐらの会、琵琶湖博物館

会期：2001年5月15日～6月17日（30日間）

場所：企画展示室

総観覧者数：19,548人

湖国もぐらの会は、地域の採集マニアや地学研究者15名で結成されたグループで、今回滋賀県産を中心に、長年収集してきた鉱物・化石標本約2,000点を一堂に会して、自然の素晴らしさ、不思議さ、面白さを紹介する展示会を開催した。ただ



ギャラリー展示
「鉱物化石展」

標本を並べるだけの展示ではなく、各人の想いを織りまぜた学術的、趣味的、個性的な展示を行うユニークなものであった。また「ふれあいコーナー」を設置し、実物標本を直に見たり触れたりしながら、観覧者との交流を深めた。本ギャラリー展示は、湖国21世紀記念事業の一環として、鉱物や化石の面白さを伝え、夢を探しにフィールドへ出かけようと熱いメッセージが込められ、開催後も採集会や観察会等の催し物が行われた。

「写真のナゾとき大作戦～子どもによる地域調査」

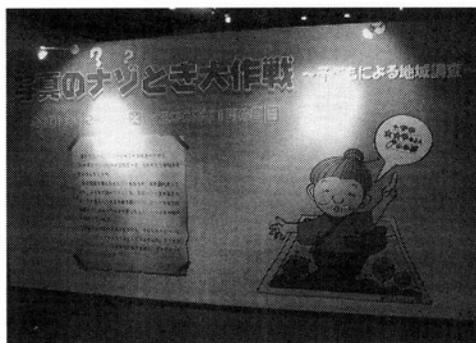
主催：琵琶湖博物館、琵琶湖博物館親しむ博物館事業実行委員会

会期：2001年12月4日～2002年1月6日（25日間）

場所：企画展示室

総観覧者数：4,309人

文部科学省の委嘱事業「親しむ博物館事業」に参加して「よみがえれ！写真たち」という事業を行った。この事業は、子どものグループ（地域調査員）が地域の古い写真を探し出し、その写真に写っているナゾについての調査を地域で行い、その結果をまとめて交流発表会などを行ったものである。事業のまとめとして、企画展示室で調査内容と共に、古い写真と新たに撮影した写真とを比較する展示会を行った。



展示室入り口の看板



展示室の様子

「第2回琵琶湖博物館民俗資料展～米をつくる道具－春・夏編－」

主催：琵琶湖博物館

会期：2002年1月25日～3月3日（33日間）

場所：企画展示室

総観覧者数：9,682人

本館では、1978年から1995年までに、滋賀県教育委員会が県内各地から収集した民具6,500点あまりを収蔵し、整理を進めている。その資料整理の成果を一般に公表し、寄贈者・調査者への還元も図ることを目的として、琵琶湖博物館民俗資料展を開催している。第2回目となる今回は、近江の米作りの道具（田起こしから田植えまで）をとりあげ130点ほどの農具を展示し、その歴史性や地域性について紹介した。

「湖の^{うみ}十字路口－野洲川平野の弥生・古墳時代－」

主催：琵琶湖博物館、草津市教育委員会、守山教育委員会、栗東市教育委員会、

中主町教育委員会、野洲町教育委員会

会期：2002年3月20日～5月12日（48日間）

場所：企画展示室

1990年代以降の野洲川下流域の新しい発掘調査の成果を、環濠集落・大形建物、玉・朱・銅製品づくり、周溝墓・首長墓、渡来人などの小テーマごとに、実物資料を紹介し、図面・写真等のパネルなどで説明を加えた。これらにより、原始・古代の時代、野洲川下流域が近江の中心地であり、大きな権力が育ちつつあったことをやさしく紹介した。

(4) 水族トピック展示

水族展示室・ふれあい体験室前または水族企画展示室において、生まれたばかりの魚の稚仔魚や、話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

| 展 示 期 間 | テーマ（場所） | 展 示 場 所 |
|------------------|--|---------|
| 2001年3月23日～5月27日 | レッドリストの魚たち－滋賀県で大切にすべき野生生物(2000年版)に掲載された淡水魚・淡水貝・陸貝－ | 水族企画展示室 |
| 4月17日～5月6日 | 産卵期を迎えたイサザ | ふれあい体験室 |
| 5月22日～6月3日 | ゼニタナゴの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 6月5日～6月17日 | ホンモロコの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 6月19日～7月8日 | ハリヨの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 7月10日～7月29日 | ゲンゴロウの幼虫 | ふれあい体験室 |
| 7月31日～8月19日 | ニッポンバラタナゴの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 8月21日～9月9日 | ワタカの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 9月11日～9月30日 | 産卵期を迎えたカネヒラ | ふれあい体験室 |
| 2002年1月4日～2月3日 | 干支にちなんだ魚－ワタカ（別名：ウマウオ） | ふれあい体験室 |
| 2月5日～3月24日 | ビワマスの稚魚 | ふれあい体験室 |
| 3月26日～4月14日 | 産卵期を迎えたイサザ | ふれあい体験室 |

(5) 展示関連事業

・ディスカバ特派員による「自然の贈り物見つけた」

ディスカバリー・ルームに何度も来室している多数の子ども達を対象としたプログラムで、2000年度に行なった活動の屋外編として、フィールドでの調査観察の方法を身につけながら、子ども達自身が自主的に何度も繰り返し参加活動できるよう企画、実施した。

活動内容としては、来館2回以上の小学生以上の参加者が、取材許可証を持ったディスカバ特派員

となり、調査専用キット（調査カードや小型ポラロイドカメラ、双眼鏡・拡大鏡付きケースなど）を使って、博物館の屋外展示で自ら見つけた対象物（生物、石など）を調査観察する。そしてまとめたものを屋外展示の見どころ情報として「博物館屋外展示・発見マップ」や「調査カード」を作りアトリウムに展示し、他の来館者に紹介していくものである。調査結果は、琵琶湖博物館のホームページでも情報公開した。

実施は、2001年5月19日（土）～6月17日（日）の土日祝日とし、計10日間行った。この期間に119人の参加があった。内18人が繰り返しディスカバ特派員に参加した。



取材専用キット

特派員はこのキットを持って発見物の調査を行った。（カバン、カメラ、調査カード、取材許可証、双眼鏡、拡大鏡つきケース、アームカバー）



調査風景



特派員による「博物館屋外展示・発見真マップ」アトリウムにて

・ディスカバリー・ルーム「にんぎょうげきじょう」の特別公演

ディスカバリー・ルームは、展示物を触ったり動かしたりしながら展示を利用する18のハンズ・オン展示で構成されている。

「にんぎょうげきじょう」コーナーは、来館者が自由に指人形を操り、人形劇を演じることができるコーナーである。昨年に引き続き、滋賀県人形連絡会などに上演を呼びかけ、人形劇特別公演を実施し、人形劇を演じるグループなど、より多くの方に積極的に博物館を利用していただく機会を提供した。

今年度は、企画展示「鯰」に関連させ、ナマズをテーマに、守山市人形劇場「かにこぞう」の大崎省子さんの創作人形劇上演会と大津市人形劇団「にんたま」による上演会を行った。

人形劇場「かにこぞう」の大崎省子さんによる創作人形劇（にんぎょうげきコーナーにて）

2001年8月11日 11:00～11:30 「うりぼうくん 夏だ ピンチだナマズ博士」

9月22日 13:30～14:00 「こまった こまった ナマズくん」

10月27日 14:00～14:30 「秋 ウリボウくんは大いそがし」

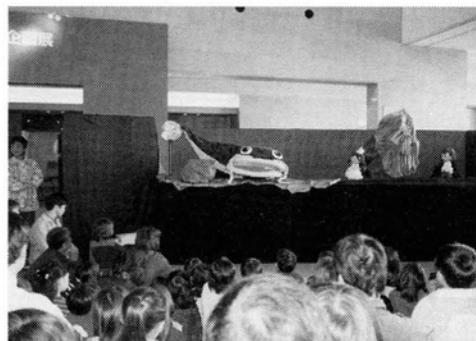
11月10日 14:00～14:30 「ナマズパーティー」

人形劇団「にんたま」による創作人形劇（アトリウムにて）

11月18日 14:00～14:30 「魔女っ子ひょっこりちゃん湖へ行く」



にんぎょうげきじょうコーナーでの上演風景



アトリウムでの上演風景

・民族楽器展示と演奏会「音がつたえる」

普段はディスカバリー・ルーム「音の部屋」コーナーで来館者に自由に演奏できるように展示している民族楽器を利用して、民族楽器演奏家のロビン・ロイド氏による演奏会を開催するとともに、民族楽器本来の素朴な音色や、使っている国の人々のことなども紹介した。また、来館者に楽器に親しんでもらうよう終日アトリウムにて楽器を展示し、ロビン氏による演奏方法や楽器の解説ワークショップを行った。

期日：2002年3月21日（木）

午前の部 11:00～11:30

午後の部 14:00～14:30

参加者：約160名



「音がつたえる」演奏会

6 印刷物

平成2001年度出版物一覧

| 出版物名称 | サイズ | ページ数 | 発行部数 |
|----------------------------------|-----|------|--------|
| 研究調査報告書 第15号 「琵琶湖のカルデラ形成史の研究」 | A 4 | 120 | 2,000 |
| 研究調査報告書 第18号 「安心院動物化石群」 | A 4 | 193 | 2,500 |
| 業績目録 第5号 | A 4 | 119 | 1,000 |
| 資料目録 第6号 | A 4 | 514 | 800 |
| 資料目録 第7号 | A 4 | 116 | 1,200 |
| 資料目録 第8号 | A 4 | 82 | 800 |
| うみんど 第19号 | A 4 | 8 | 50,000 |
| うみんど 第20号 | A 4 | 8 | 40,000 |
| うみんど 第21号 | A 4 | 8 | 40,000 |
| うみんど 第22号 | A 4 | 8 | 40,000 |
| うみっこ 特別号 | A 4 | 4 | 30,000 |
| うみっこ 第10号 | A 4 | 4 | 70,000 |
| うみっこ 第11号 | A 4 | 4 | 70,000 |
| もよおしもの案内 (上半期) チラシ | A 4 | | 30,000 |
| もよおしもの案内 (上半期) ポスター | A 2 | | 750 |
| もよおしもの案内 (下半期) チラシ | A 4 | | 45,000 |
| もよおしもの案内 (下半期) ポスター | A 2 | | 1,300 |
| 要 覧 | A 4 | 52 | 1,000 |
| 要 覧 (英語版) | A 4 | 55 | 300 |
| 年 報 5号 | A 4 | 73 | 1,000 |
| 開館5周年記念企画展展示解説書 | A 4 | 164 | 1,000 |
| 開館5周年記念企画展チラシ | A 4 | | 40,000 |
| 開館5周年記念企画展ポスター | A 2 | | 1,000 |
| 開館5周年記念シンポジウムチラシ | A 4 | | 5,000 |
| 開館5周年記念シンポジウムポスター | A 2 | | 100 |
| 開館5周年記念シンポジウム講演要旨集 | A 4 | 22 | 500 |
| ぐる〜と琵琶湖滋賀用チラシ | A 4 | | 30,000 |
| ぐる〜と琵琶湖滋賀用チラシ (追加) | A 4 | | 30,000 |
| 休館日お知らせポスター | A 1 | | 100 |
| 休館日お知らせポスター | B 1 | | 1,000 |
| 「米をつくる道具」リーフレット | A 4 | 4 | 4,500 |

| | | | |
|----------------------|-----|---|--------|
| 「湖の十字路」チラシ | A 4 | | 10,000 |
| 「湖の十字路」ポスター | B 2 | | 1,000 |
| 「湖の十字路」リーフレット | A 4 | 9 | 5,000 |
| 「今森洋輔『琵琶湖の魚』原画展」チラシ | A 4 | | 10,000 |
| 「今森洋輔『琵琶湖の魚』原画展」ポスター | A 4 | | 1,000 |
| 水族企画展「滋賀のカメたち」チラシ | A 4 | | 30,000 |
| 水族企画展「滋賀のカメたち」ポスター | B 2 | | 1,000 |

Ⅱ 利 用 状 況

1 2001年度入館者数

期 間：2001（平成13）年4月1日～2002（平成14）年3月31日

合 計：492,190人 開館日数：305日

1日平均：1,614人

月平均：41,016人

入館者の区分別内訳

単位：人

| 区 分 | 個 人 (人) | 団 体 (人) | 合 計 (人) | 構 成 比 (%) |
|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 未 就 学 児 | 46,358 | 4,906 | 51,264 | 10.4 |
| 小・中 学 生 | 38,217 | 76,557 | 114,774 | 23.3 |
| 高・大 学 生 | 6,859 | 13,121 | 19,980 | 4.1 |
| 一 般 | 195,173 | 110,999 | 306,172 | 62.2 |
| 合 計 | 286,607 | 205,583 | 492,190 | 100.0 |

(1) 総入館者数

| 年 月 | 開 館 日 数 (日) | 有 料 入 館 (人) | | | | 無 料 入 館 (人) | | | | | | | | 総 計 (人) | 1日当 り平均 (人) |
|-----|-------------------|-------------|---------|---------|---------|-------------|-------|---------|---------|--------------|---------|--------|---------|------------|-------------------|
| | | 一 般 | 高 大 学 生 | 小 中 学 生 | 有 料 計 | 65歳以上 | 障 害 者 | 家 庭 の 日 | 体 験 学 習 | こ だ も の 日 | 学 校 行 事 | そ の 他 | 無 料 計 | | |
| 13 | 4 | 22,333 | 4,690 | 8,287 | 35,310 | 346 | 295 | 251 | 25 | | 279 | 4,724 | 6,047 | 41,357 | 1,591 |
| | 5 | 29,194 | 2,010 | 18,624 | 49,828 | 620 | 412 | 310 | 48 | 177 | 2,546 | 5,757 | 10,006 | 59,834 | 2,216 |
| | 6 | 26,298 | 1,008 | 10,238 | 37,544 | 762 | 640 | 323 | 31 | | 3,996 | 4,998 | 11,082 | 48,626 | 1,870 |
| | 7 | 30,041 | 924 | 7,229 | 38,194 | 615 | 316 | 250 | 12 | | 1,119 | 6,099 | 8,593 | 46,787 | 1,800 |
| | 8 | 40,448 | 2,103 | 14,359 | 56,910 | 693 | 560 | 342 | 17 | | 265 | 8,598 | 10,689 | 67,599 | 2,414 |
| | 9 | 24,905 | 1,294 | 3,897 | 30,096 | 630 | 556 | 662 | 24 | | 1,282 | 5,435 | 8,717 | 38,813 | 1,688 |
| | 10 | 26,105 | 1,535 | 15,587 | 43,227 | 619 | 706 | 324 | 12 | | 6,753 | 5,319 | 13,972 | 57,199 | 2,200 |
| | 11 | 24,583 | 1,389 | 7,354 | 33,326 | 487 | 595 | 251 | 22 | | 3,819 | 4,543 | 10,094 | 43,420 | 1,670 |
| | 12 | 8,608 | 597 | 1,151 | 10,356 | 143 | 128 | 216 | 9 | | 738 | 2,068 | 3,443 | 13,799 | 600 |
| 14 | 1 | 12,473 | 325 | 2,201 | 14,999 | 252 | 221 | 316 | 26 | | 1,023 | 3,698 | 5,721 | 20,720 | 863 |
| | 2 | 13,772 | 558 | 2,761 | 17,091 | 358 | 232 | 419 | 10 | | 755 | 4,421 | 6,195 | 23,286 | 970 |
| | 3 | 17,887 | 845 | 4,620 | 23,352 | 381 | 339 | 289 | 17 | | 292 | 5,890 | 7,398 | 30,750 | 1,183 |
| 計 | 305 | 276,647 | 17,278 | 96,308 | 390,233 | 5,906 | 5,000 | 3,953 | 253 | 177 | 22,867 | 61,550 | 101,957 | 492,190 | 1,614 |

(2) 学校等入館者数

| 年 月 | | 小 学 校 | | 中 学 校 | | 高 校 | | 養 聾 盲 学 校 | |
|------|-----|-------|--------|-------|--------|-----|-------|-----------|-----|
| | | 学校数 | 人 数 | 学校数 | 人 数 | 学校数 | 人 数 | 学校数 | 人 数 |
| 13・4 | 全 体 | 29 | 2,709 | 13 | 1,366 | 5 | 1,039 | 0 | 0 |
| | 県 内 | 0 | 0 | 3 | 176 | 1 | 84 | 0 | 0 |
| 5 | 全 体 | 110 | 7,950 | 43 | 6,228 | 14 | 2,201 | 3 | 55 |
| | 県 内 | 15 | 832 | 2 | 483 | 8 | 1,311 | 3 | 55 |
| 6 | 全 体 | 60 | 4,758 | 35 | 5,317 | 7 | 649 | 6 | 229 |
| | 県 内 | 32 | 2,357 | 7 | 838 | 2 | 386 | 4 | 45 |
| 7 | 全 体 | 16 | 1,161 | 19 | 1,773 | 3 | 80 | 2 | 32 |
| | 県 内 | 5 | 185 | 5 | 244 | 2 | 43 | 2 | 32 |
| 8 | 全 体 | 9 | 1,435 | 3 | 93 | 5 | 63 | 1 | 13 |
| | 県 内 | 3 | 31 | 1 | 43 | 5 | 63 | 0 | 0 |
| 9 | 全 体 | 21 | 1,247 | 8 | 428 | 8 | 631 | 0 | 0 |
| | 県 内 | 16 | 903 | 3 | 44 | 5 | 199 | 0 | 0 |
| 10 | 全 体 | 235 | 15,857 | 21 | 2,322 | 8 | 785 | 7 | 76 |
| | 県 内 | 96 | 4,810 | 10 | 492 | 4 | 163 | 3 | 46 |
| 11 | 全 体 | 82 | 5,205 | 22 | 2,758 | 5 | 544 | 2 | 90 |
| | 県 内 | 53 | 3,020 | 8 | 292 | 1 | 26 | 0 | 0 |
| 12 | 全 体 | 1 | 50 | 2 | 250 | 7 | 500 | 0 | 0 |
| | 県 内 | 0 | 0 | 2 | 250 | 5 | 413 | 0 | 0 |
| 14・1 | 全 体 | 14 | 1,047 | 2 | 112 | 3 | 177 | 0 | 0 |
| | 県 内 | 9 | 679 | 2 | 112 | 3 | 177 | 0 | 0 |
| 2 | 全 体 | 25 | 1,468 | 2 | 64 | 5 | 181 | 2 | 72 |
| | 県 内 | 10 | 605 | 2 | 64 | 3 | 33 | 0 | 0 |
| 3 | 全 体 | 9 | 710 | 4 | 249 | 2 | 82 | 3 | 25 |
| | 県 内 | 3 | 235 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 25 |
| 計 | 全 体 | 611 | 43,597 | 174 | 20,960 | 72 | 6,932 | 26 | 592 |
| | 県 内 | 242 | 13,657 | 45 | 3,038 | 39 | 2,898 | 15 | 203 |

(3) 月別・曜日別入館者数

| 年 | 月 | 日曜・祝祭日 | 土曜日（祝日除く） | そ の 他 | 計 |
|-------|----|---------|-----------|---------|---------|
| 13 | 4 | 17,713 | 6,501 | 17,143 | 41,357 |
| | 5 | 25,017 | 5,633 | 29,184 | 59,834 |
| | 6 | 14,904 | 10,729 | 22,993 | 48,626 |
| | 7 | 18,296 | 9,681 | 18,810 | 46,787 |
| | 8 | 16,314 | 9,821 | 41,464 | 67,599 |
| | 9 | 21,820 | 5,732 | 11,261 | 38,813 |
| | 10 | 14,259 | 5,942 | 36,998 | 57,199 |
| | 11 | 16,133 | 4,809 | 22,478 | 43,420 |
| | 12 | 6,529 | 3,407 | 3,863 | 13,799 |
| 14 | 1 | 10,106 | 4,345 | 6,269 | 20,720 |
| | 2 | 11,707 | 4,554 | 7,025 | 23,286 |
| | 3 | 11,168 | 6,555 | 13,027 | 30,750 |
| 計 | | 183,966 | 77,709 | 230,515 | 492,190 |
| 構成割合% | | 37.4 | 15.8 | 46.8 | 100.0 |

2 来館者アンケート調査結果報告

来館者動向を把握するために、来館回数、情報源、年齢、居住地などの通常アンケート項目に加えて、2001年度は、よりよい運営を目指すために、休館日や満足度などに関する項目を追加して行った。

| 回 | 調査期日 | 回答者数 |
|---|----------------|------|
| 1 | 2001年8月16日～18日 | 526人 |
| 2 | 2001年11月2日～4日 | 335人 |
| 3 | 2002年3月29日～31日 | 341人 |

【来館者の動向】

来館回数の比較では、1999年以降、「はじめて」という人の割合が60%弱で、「2回目」「3回目」「4回目以上」のリピーターの割合が40%強で安定してきている。

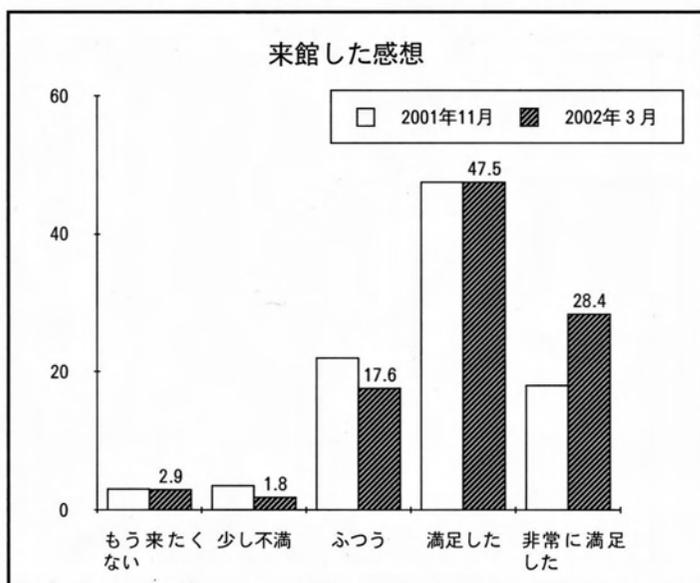
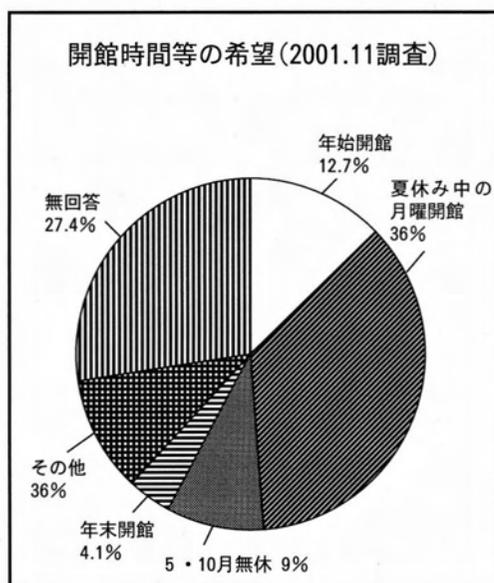
情報源の比較では、友人や家族の口コミや雑誌が多く、新聞・テレビ・ラジオのマスコミや行政の広報を上回っている。

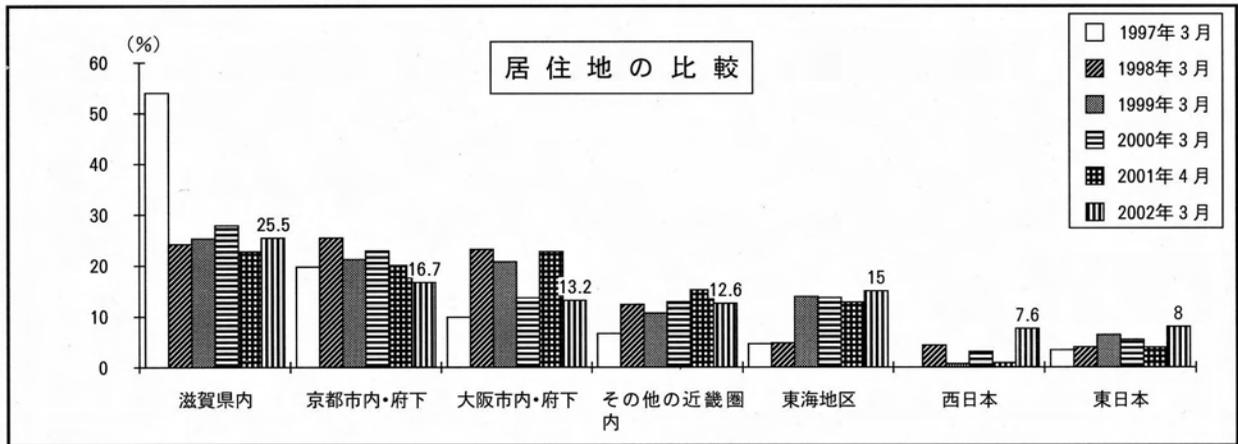
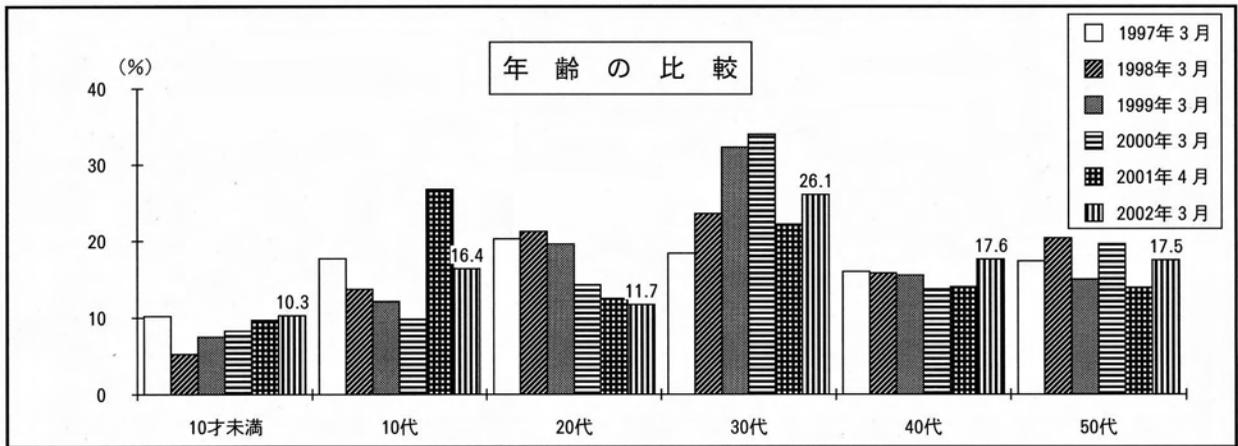
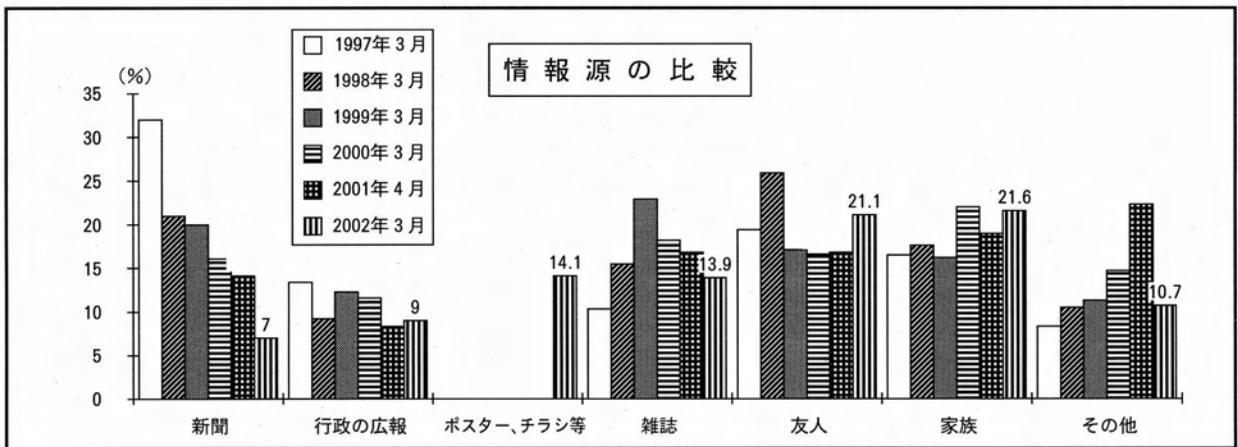
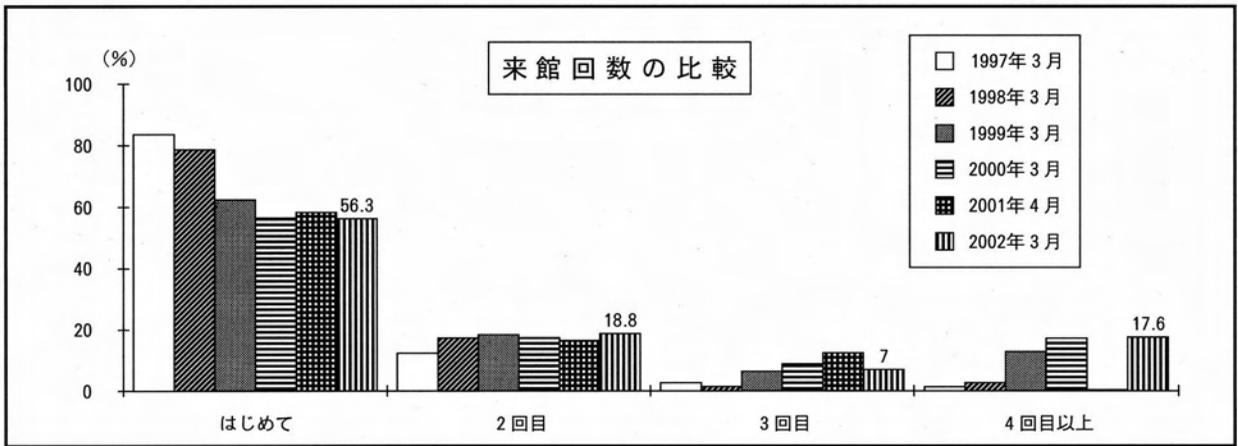
年齢の比較では、30代が最も多く、20代の微減傾向が続いている反面、10代未満は微増傾向にある。

居住地の比較では、県内が25%前後で比較的安定している反面、京都は微減傾向にあるとともに、大阪は年により変動が大きい。

今回行った休館日等に関する質問については、8月のアンケートでは夏季時間の延長に関する希望が、11月のアンケートでは夏休み期間中の月曜日開館の希望が最も多く、アンケートを行う時期により希望が異なっており、今後も来館者ニーズの把握に努めていきたい。

また、来館者の満足度に関する質問では、「満足した」と回答した人が50%弱を占め、「ふつう」「非常に満足した」をあわせると、9割以上の人々に満足いただいております。当館との関わり方に関する質問では、展示を見るだけでなく、観察会などに参加したい人々の割合が増えています。





3 新聞掲載記録

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|-----|--|-------------------|------|---|--------------|
| 4 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 | 4 18 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館亀田佳代子学芸員 | 読売新聞 |
| 1 | 絶滅危惧種の魚紹介 企画展「レッドリストの魚たち」開催 | 産経新聞 | 19 | 琵琶湖「時代」周航 県立琵琶湖博物館紹介 | 毎日新聞 |
| 2 | 県立琵琶湖博物館内のILEC展示コーナーに世界の湖沼環境の危機的状況が一目で分かる特殊装置を設置 | 中日新聞 | 20 | 輝けミュージアム、展示・調査市民の手で 県立琵琶湖博物館紹介 | 日本経済新聞 |
| 4 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長 | 読売新聞 | 20 | 3D映像でリアル体験 ILEC県立琵琶湖博物館内展示コーナーに映像装置設置 | 京都新聞 |
| 4 | 在来魚増やせ！水田を産卵、繁殖の場に「魚のゆりかごプロジェクト」開始 | 京都新聞 | 22 | 淡海のひと、自然の宝自分の力で 琵琶湖博物館紹介 | 朝日新聞 |
| 4 | 湖沼の表情鮮明に 写真展「湖沼の伝説」開催 | 京都新聞 | 23 | ボテジャコ守ろう 琵琶湖博物館でボテジャコについて考えるシンポジウム開催 | 京都新聞 |
| 4 | 文化&レジャー 琵琶湖博物館「田んぼ体験教室」参加者募集 | 朝日新聞 (7171A1)産 | 25 | 体験学習プログラム「漁師修行の旅」で「ミュージアム・マネージメント学会賞」を県立琵琶湖博物館芦谷美奈子学芸員が受賞 | 毎日新聞 |
| 6 | 美味な溪流の女王「ヤマメ」(写真提供) | 産経新聞 | 25 | 守れ魚や貝の楽園 企画展「レッドリストの魚たち」開催 | 京都新聞 |
| 8 | 都市化、農業が息環境を破壊 琵琶湖博物館桑原雅之主任学芸員の話「ミナミトミヨ」(写真提供) | 京都民報 | 25 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館橋本道範学芸技師 | 読売新聞 産経新聞 |
| 10 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念行事、連続講座「湖と人間」を開講 | 読売新聞 | 26 | 環境の激変物語る小魚減少 県立琵琶湖博物館松田征也主任学芸員の話 | 産経新聞 |
| 11 | 世界の湖沼立体映像 県立琵琶湖博物館館内のILEC展示スペースを模様替 | 読売新聞 | 27 | 琵琶湖の生物たち「ジルテラピア」県立琵琶湖博物館秋山廣光専門学芸員の話 | 産経新聞 |
| 11 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館芳賀裕樹学芸技師 | 読売新聞 | 30 | ブラックバス天井 県立琵琶湖博物館内レストラン人気メニュー | 産経新聞 |
| 13 | 琵琶湖の生物たち「イケチョウガイ」(写真提供) | 産経新聞 | 5 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 |
| 14 | レッドリストの魚 企画展「レッドリストの魚たち」開催 | 毎日新聞 | 1 | 「川を考える」フォーラム 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問が講演 | 朝日新聞 |
| 14 | ブラックバスどうする 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 京都新聞 | 2 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館桑村邦彦主査 | 読売新聞 |
| 15 | ウチウミの復元を 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 | 4 | 琵琶湖の生物たち「スゴモロコ」県立琵琶湖博物館秋山廣光専門学芸員の話 | 産経新聞 |
| 16 | 輝く命ギフチョウ産卵 琵琶湖博物館の話 | 京都新聞 | 9 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館前畑政善専門学芸員 | 読売新聞 |
| 16 | 輝けミュージアム、参加・体験・五感で学ぶ 県立琵琶湖博物館紹介 | 日本経済新聞 | 10 | ガイドBOX 琵琶湖博物館の催し物案内 | 滋賀報知新聞 |
| 17 | 定置網「えり」にオオサンショウウオがかかる、県立琵琶湖博物館で保護 | 産経新聞 | 11 | 琵琶湖の生物たち「オオサンショウウオ」定置網にかかり、琵琶湖博物館で保護 | 産経新聞 |
| 17 | オオサンショウウオ「えり」で見つかる、県立琵琶湖博物館で保護 | 京都新聞 | 12 | 大地の宝物肌で感じて 鉱物・化石展「湖国の大地に夢を掘る」開催 | 朝日新聞 |
| 17 | 琵琶湖にオオサンショウウオ、県立琵琶湖博物館で保護 | 読売新聞 | 13 | 琵琶湖博物館開館5周年記念連続講座「湖と人間」開講案内 | 滋賀民報 |
| 17 | 定置網にオオサンショウウオがかかる、県立琵琶湖博物館で保護 | 毎日新聞 | 14 | 小学生対象のヨシ観察会 県立琵琶湖博物館と周辺で開催 | 中日新聞 |
| 17 | 定置網「えり」にオオサンショウウオがかかる、県立琵琶湖博物館で保護 | 朝日新聞 | 15 | 「川を考える」フォーラム 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問が講演 | 中日新聞 |
| 18 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念行事、連続講座「湖と人間」を開講 | 京都新聞 | | | |
| 18 | 文化&レジャー 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 (7171A1)産 | | | |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|------|---|------|------|---|----------------------|
| 5 16 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館牧野厚史主任学芸員 | 読売新聞 | 5 30 | 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 |
| 19 | 秋篠宮ご夫妻が日本動物園水族館協会総会に出席 県立琵琶湖博物館開館記念行事以来の来県 | 中日新聞 | 6 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 |
| 19 | 湖沼会議、全体会議の基調講演者に県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が内定 | 朝日新聞 | 3 | 外来魚の危険性訴え 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 朝日新聞 |
| 19 | 湖沼会議、全体会議の基調講演者に企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長が内定 | 毎日新聞 | 3 | 世界水会議会長のムハマド・アブザイド氏が県立琵琶湖博物館を見学 | 京都新聞 |
| 19 | 湖沼会議、全体会議の基調講演者に企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が内定 | 中日新聞 | 3 | 世界水会議会長のムハマド・アブザイド氏が県立琵琶湖博物館を見学 | 朝日新聞 |
| 19 | 湖沼会議、全体会議の基調講演者に県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が内定 | 京都新聞 | 3 | 世界水会議会長のムハマド・アブザイド氏が県立琵琶湖博物館を見学 | 中日新聞 |
| 19 | アメイトンボを採集 県立琵琶湖博物館で標本として保管 | 朝日新聞 | 3 | 世界水会議会長のムハマド・アブザイド氏が県立琵琶湖博物館を視察 | 読売新聞 |
| 19 | 堺市の府立大泉緑地でブラックバス発見、県立琵琶湖博物館で胃袋内容物調べる | 朝日新聞 | 3 | 世界水フォーラム、26分科会で活発議論 琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 京都新聞 |
| 20 | 湖国の「地学」一目で 鮎物・化石展「湖国の大地に夢を掘る」開催 | 京都新聞 | 5 | 世界水フォーラム参加者が県立琵琶湖博物館を視察、嘉田由希子研究顧問が琵琶湖の水環境について説明 | 京都新聞 |
| 23 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館アンドリュウ・ロシター専門学芸員 | 読売新聞 | 6 | 文化&レジャー 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 (7/17/18/19) |
| 24 | 自然発見のイベント、子供のディスカバ特派員による「自然の贈り物見つけた」開催 | 朝日新聞 | 7 | 八日市でカプトエビ発見 県立琵琶湖博物館楠岡泰主任学芸員の話 | 朝日新聞 |
| 24 | 秋篠宮ご夫妻が日本動物園水族館協会総会に出席、琵琶湖博物館オープン以来の来県 | 中日新聞 | 8 | 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の17歳のころ | 朝日新聞 |
| 24 | 秋篠宮ご夫妻が日本動物園水族館協会総会に出席、琵琶湖博物館開館記念シンポジウム以来の来県 | 産経新聞 | 9 | 淀川水系流域委員会が琵琶湖を視察、琵琶湖博物館川那部浩哉館長・嘉田由紀子京都精華大教授が参加 | 京都新聞 |
| 24 | 秋篠宮ご夫妻が日本動物園水族館協会総会に出席 県立琵琶湖博物館開館記念シンポジウム以来の来県 | 朝日新聞 | 10 | 湖沼会議の企画委員会は会議の詳細を固めた 企画委員長＝琵琶湖博物館川那部浩哉館長 | 京都新聞 |
| 24 | 秋篠宮ご夫妻が動物園水族館協会総会に出席 県立琵琶湖博物館開館式以来の来県 | 読売新聞 | 13 | 守山市女性さわやか学級で県立琵琶湖博物館牧野厚史主任学芸員が講師 | 中日新聞 |
| 24 | 日本動物園水族館協会総会が開催、参加者が琵琶湖博物館を見学 | 京都新聞 | 13 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館中川修主任主事 | 読売新聞 |
| 25 | 「国際湖沼シンポジウム」パネルディスカッションのコーディネーターに琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問を予定 | 産経新聞 | 13 | 湖国に移り住んで C100の話 | 朝日新聞 (7/17/18/19) |
| 26 | 水保病上告の経緯伝えて 琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 | 13 | 2001年度助成金贈呈式にファンド運営委員で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が贈呈書を手渡した | 京都新聞 |
| 29 | 体験学習プログラム「漁師修行の旅」で「ミュージアム・マネージメント学会賞」を琵琶湖博物館芦谷美奈子学芸員が受賞 | 京都新聞 | 15 | 草津市の小学4年生が「エコ草津探検隊」をスタート、体験学習で県立琵琶湖博物館を利用 | 京都新聞 |
| 29 | 湖沼会議に市民参加 企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 朝日新聞 | 15 | ブラックバス勢力拡大 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 京都新聞 |
| 30 | 琵琶湖博物館紙上講座 県立琵琶湖博物館中島経夫総括学芸員 | 読売新聞 | 16 | 水辺遊びの生態学 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 日経新聞 |
| | | | 17 | 「近江の国中世なんでも探検隊」の活動で「中世のあそび探検」を開催 | 朝日新聞 |
| | | | 20 | 釣り人夢の跡 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 朝日新聞 |
| | | | 20 | 世界水会議会長のムハマド・アブザイド氏が県立琵琶湖博物館を視察 | 中日新聞 |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|----|---|-------------|----|--|---------------------|
| 6 | 25 水環境を考えるフォーラムで琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問が語る | 朝日新聞 | 8 | 1 こどもプラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 |
| | 26 竜王で珍種のガ採取 県立琵琶湖博物館八尋克彦主任学芸員の話 | 京都新聞 | | 2 ナマズを知っていますか 琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 産経新聞 |
| | 26 淀川水系流域委員会が琵琶湖を視察、琵琶湖博物館川那部浩哉館長・嘉田由希子京都精華大教授が参加 | 読売新聞 | | 2 文化&レジャー 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 (7/17/1A1面) |
| | 27 博物館めぐり 県立琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 | | 4 県立琵琶湖博物館でナマズの生態と多様性を紹介する展示を開催 | 北日本新聞 |
| | 29 行ってみようよ、来て見て触って味わう「湖の幸」 県立琵琶湖博物館紹介 | 朝日新聞 | | 5 琵琶湖淀川水質保全機構が自然観察会 県立琵琶湖博物館学芸員が指導 | 中日新聞 |
| 7 | 1 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 | | 6 水辺移行帯は産卵の場 琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 中日新聞 |
| | 1 琵琶湖淀川水質保全機構が自然観察会、琵琶湖博物館学芸員らが指導 | 京都新聞 | | 6 県立琵琶湖博物館でナマズの生態と多様性を紹介する展示を開催 | 南日本新聞 |
| | 7 講演会「平安神宮の池と琵琶湖のさかなたち」琵琶湖博物館秋山廣光専門学芸員が講演 | 京都新聞 | | 8 文化&レジャー 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 (7/17/1A1面) |
| | 11 竹生島カワウ被害 琵琶湖博物館亀田佳代子学芸技師の話 | 京都新聞 | | 9 県立琵琶湖博物館が観覧時間を延長、イベント開催 | 朝日新聞 |
| | 15 体験教室で小学生が植物標本づくりに挑戦、県立琵琶湖博物館桑垣瑞穂託員らが指導 | 朝日新聞 | | 10 涼しく楽しく見学して 県立琵琶湖博物館が開館時間延長 | 産経新聞 |
| | 16 ぐるり琵琶湖、半島先端に博物館 県立琵琶湖博物館紹介 | 中日新聞 | | 10 夕暮れイベントも多彩 県立琵琶湖博物館が開館時間を延長、イベント開催 | 京都新聞 |
| | 17 「世界湖沼会議議員セッション」 県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 | | 10 県立琵琶湖博物館が観覧時間を延長、イベント開催 | 読売新聞 |
| | 18 世界湖沼会議「議員セッション」 県立琵琶湖博物館で開催 | 産経新聞 | | 10 開館を2時間延長 県立琵琶湖博物館が開館時間を延長、イベント開催 | 中日新聞 |
| | 20 琵琶湖博物館の催し物案内 | 中日新聞 | | 11 夢ある公共事業の提案を 琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 |
| | 23 世界湖沼会議「議員セッション」 県立琵琶湖博物館で開催 | 毎日新聞 | | 15 巨大ナマズがお出迎え 琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 京都新聞 |
| | 24 ナマズの魅力もっと知って、琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 読売新聞 | | 15 ナマズの魅力たっぷり紹介 琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 京都新聞 (京都市版) |
| | 24 ナマズと人のかかわり考える、琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯀一魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 朝日新聞 | | 19 レッドデータ日本の現状 県立琵琶湖博物館芦中井克樹主任学芸員の話 | 中日サンデー |
| | 26 郡生のハス満開、県立琵琶湖博物館も巡るシャトルバスを運行 | 産経新聞 | | 20 消費不況と琵琶湖博物館展示室、湖の恵みで暮らした人々の生活 | 読売新聞 |
| | 27 「よみがえれ！写真たち」子ども調査員と協力員募集 | 中日新聞 | | 22 推理楽しみ観光地巡り「草津宿ミステリースタンプラリー」実施 | 京都新聞 |
| | 27 「よみがえれ！写真たち」参加者募集 | 朝日新聞 | | 22 博物館で淡水魚をじっくりと観察 県立琵琶湖博物館紹介 | 産経新聞 |
| | 29 タウン情報 琵琶湖博物館の催し物案内 | 京都新聞 | | 25 水草に関するミニシンポジウムで県立琵琶湖博物館芳賀裕樹学芸技師が研究発表 | 読売新聞 |
| | 30 水辺の生き物とふれあう観察会開催、県立琵琶湖博物館桑原雅之主任学芸員の話 | 朝日新聞 | | 25 湖の環境映す今昔写真 NGOと県立琵琶湖博物館が調査研究 | 読売新聞 |
| | 30 草津川跡地利用へ現況調査 県立琵琶湖博物館大塚泰介学芸技師が指導 | 中日新聞 | | 27 県立琵琶湖博物館で「夏休み相談室」開催 | 朝日新聞 |
| | 31 「よみがえれ！写真たち」参加する子供のグループを募集 | 京都新聞 | | 28 県立琵琶湖博物館がHP「滋賀のトンボ」開設 | 中日新聞 |
| | 31 県立琵琶湖博物館でナマズの生態と多様性を紹介する展示を開催 | 中国新聞 | | | |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|------|---|-------------|-------|---|------|
| 8 29 | 突然変異の金色ドジョウ、琵琶湖で発見 | 朝日新聞 | 10 10 | シーボルトが持ち帰った日本のナマズの絵や形態記載文が琵琶湖博物館で国内初公開 | 読売新聞 |
| 9 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 | 12 | シーボルト収集ナマズ資料を琵琶湖博物館で公開 | 京都新聞 |
| 2 | 人間とカワウ知恵調べ 琵琶湖博物館 亀田佳代子学芸師の話 | 中日新聞 | 13 | 豊かな湖復活へ情報発信 県立琵琶湖博物館重野良寛副館長の話 | 読売新聞 |
| 5 | 湖沼会議で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の基調講演予定 | 朝日新聞 | 13 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻出席 | 中日新聞 |
| 5 | ナマズ通し自然考えて 県立琵琶湖博物館5周年記念企画展「鯰-魚がむすぶ琵琶湖と田んぼ」開催 | 毎日新聞 | 13 | 県立琵琶湖博物館は秋篠宮ご夫妻を招いて開館5周年記念シンポジウムを開催 | 京都新聞 |
| 5 | 琵琶湖博物館の催し物案内 | 朝日新聞 | 18 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻出席 | 読売新聞 |
| 5 | 川那部浩哉委員長含む8人の学者が「津田内湖復元研究会」を結成 | 朝日新聞 | 19 | 県立琵琶湖博物館に秋篠宮ご夫妻が来県、記念シンポジウムに参加 | 中日新聞 |
| 8 | 「国際生物多様性観測年」の調査研究を紹介するシンポジウムが県立琵琶湖博物館で開催 | 読売新聞 | 19 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻が出席 | 読売新聞 |
| 9 | シンポジウム「淡水の生物多様性をさぐる」県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 | 19 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウムを開催、秋篠宮さまがナマズの魅力語る | 京都新聞 |
| 11 | オランダからナマズの標本が里帰り、琵琶湖博物館企画展「鯰」に出品 | 朝日新聞 | 19 | 県立琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻を招いて開催 | 朝日新聞 |
| 14 | 全国から1000人集う環境学習 県立琵琶湖博物館の活用紹介 | 毎日新聞 | 19 | 県立琵琶湖博物館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻が来訪 | 産経新聞 |
| 14 | 県立琵琶湖博物館が電子図鑑「滋賀のトンボ」をインターネットで公開 | 読売新聞 | 20 | 湖沼会議イベント、共同シンポジウムを琵琶湖博物館で開催 | 産経新聞 |
| 19 | 滋賀はトンボの宝庫です 県立琵琶湖博物館はHP「滋賀のトンボ」を創設 | 産経新聞 | 20 | 道の駅が県立琵琶湖博物館などがある鳥丸半島に来年7月オープン | 産経新聞 |
| 21 | NGOワークショップを県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 | 20 | 琵琶湖博物館開館5周年記念シンポジウム 最終日に総合討論 | 中日新聞 |
| 25 | グローバル化時代、独自の視野を 琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 | 21 | 「ヨシとの共生」琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問がトークショー | 朝日新聞 |
| 29 | エコツーリズムの在り方 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 毎日新聞 | 22 | 県立琵琶湖博物館5周年記念シンポジウムに秋篠宮ご夫妻が来県 | 中日新聞 |
| 10 2 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 | 23 | 水辺の今昔、なりわいからレジャーへ今昔写真展紹介 | 京都新聞 |
| 3 | チリ行政関係者が県立琵琶湖博物館で琵琶湖総合保全整備計画の説明を受けた | 中日新聞 | 23 | 琵琶湖の淡水真珠、ニューヨークで展示 県立琵琶湖博物館が仲介 | 京都新聞 |
| 4 | 舟で通勤、渋滞緩和 鳥丸半島・県立琵琶湖博物館と大津港を運航 | 読売新聞 | 24 | 水辺の今昔、湖岸の洗濯 今昔写真展紹介 | 京都新聞 |
| 4 | 通勤にマイカー&舟 鳥丸-大津港を運航、琵琶湖博物館の駐車場を利用 | 産経新聞 | 25 | 水辺の今昔、田んぼは四角く、心は丸く 今昔写真展紹介 | 京都新聞 |
| 5 | NGOワークショップを県立琵琶湖博物館で開催 | 毎日新聞 | 25 | 北湖に潜水、国際学術調査始まる 県立琵琶湖博物館中井主任学芸員が調査 | 中日新聞 |
| 6 | 加藤登紀子さんと歌おう 嘉田由紀子京都精華大学教授と話し合いのうち意気投合でコンサート決定 | 京都新聞 | 26 | 琵琶湖博物館には鳥の展示品や専門家が少なく、鳥獣の専門的施設が必要 | 朝日新聞 |
| 6 | 「環境教育でフォーラム」琵琶湖博物館秋山廣光専門学芸員が意見を交わす | 京都新聞 | 26 | 水辺の今昔、蹴上疎水の舟だまり 今昔写真展紹介 | 京都新聞 |
| 6 | シーボルトの日本のナマズ研究資料が琵琶湖博物館で日本初公開 | 中日新聞 | 26 | 里山を見直そうフォーラム開催 県立琵琶湖博物館布谷知夫総括学芸員がコーディネーター | 中日新聞 |
| 10 | 生物保全へ湖底に潜り調査 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話（写真提供） | 中日新聞 | 27 | 水辺の今昔、洗い物は今も湖岸で 今昔写真展紹介 | 京都新聞 |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|-------|--|-------------|------|---|------|
| 10 29 | 水辺の今昔、頭上運搬の水くみは今も今昔写真展紹介 | 京都新聞 | 11 9 | 県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 県立琵琶湖博物館で開催 | 朝日新聞 |
| 30 | 「かがやき未来塾」琵琶湖博物館川那部浩哉館長が講演 | 産経新聞 | 9 | 県・UNEP・NGOが共同シンポジウム 県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 |
| 30 | 水辺の今昔、水路消え生態も変化 今昔写真展紹介 | 京都新聞 | 9 | 滋賀県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| 30 | 膳所小で「かがやき未来塾」琵琶湖博物館川那部浩哉館長が講演 | 産経新聞 | 9 | 県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 県立琵琶湖博物館で開催 | 読売新聞 |
| 31 | 水辺の今昔、緑がふえた公園 今昔写真展紹介 | 京都新聞 | 9 | 県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 県立琵琶湖博物館で開催 | 毎日新聞 |
| 31 | 外来魚が破壊に拍車 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 毎日新聞 | 9 | 「水辺」から「水際」 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 朝日新聞 |
| 11 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 | 10 | 「環境の新世紀」発進 湖沼会議に参加する県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長等3人により話し合い | 京都新聞 |
| 1 | 世界湖沼会議開催 川那部浩哉世界湖沼会議実行委員会企画委員長の話 | 各紙折り込み、各戸配布 | 10 | 北湖に数カ所で潜水調査 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が調査 | 中日新聞 |
| 1 | 世界の湖沼大阪で写真展 国際湖沼環境委員会や県立琵琶湖博物館が主催 | 毎日新聞 | 10 | 滋賀県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| 1 | 水辺の今昔、嫁入り道中 今昔写真展紹介 | 京都新聞 | 10 | 滋賀県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| 2 | 水辺の今昔、三条大橋下の納涼床 今昔写真展紹介 | 京都新聞 | 10 | 県立琵琶湖博物館で開催の県など主催の共同シンポジウム閉幕 | 中日新聞 |
| 4 | 袴姿で出勤 琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 東京新聞 | 10 | 県立琵琶湖博物館で開催の県・UNEP・ILECが共同シンポジウム閉会 | 毎日新聞 |
| 4 | 湖沼会議 琵琶湖博物館川那部浩哉館長らが基調講演 | 読売新聞 | 10 | びわ湖会議シンポ 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問がコーディネーター | 朝日新聞 |
| 4 | 「写真で見る世界の湖沼の100年」展 嘉田由紀子京都精華大教授が座長を務める | 毎日新聞 | 11 | NGOが意見交換、NGOワークショップが県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| 6 | 湖沼会議を前に論 企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が会見 | 毎日新聞 | 11 | NGOの役割は？NGOワークショップが県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 |
| 6 | 湖沼会議に出席のため秋篠宮ご夫妻来県、十月にも県立琵琶湖博物館に来訪 | 中日新聞 | 11 | NGOワークショップで県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問が問題提起 | 中日新聞 |
| 6 | 県やILECなどが共同シンポジウムを県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 | 11 | NGOの役割探る、NGOワークショップが県立琵琶湖博物館で開催 | 朝日新聞 |
| 7 | 湖沼会議、複雑化する環境に焦点 琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 産経新聞 | 11 | 17カ国の学生集う NGOワークショップが県立琵琶湖博物館で開催 | 産経新聞 |
| 7 | 湖沼会議「議員セッション」県立琵琶湖博物館で開催 | 毎日新聞 | 12 | 湖沼会議、市民・NGOの参加こだわる 企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 朝日新聞 |
| 7 | 滋賀県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 | 12 | 湖沼会議、滋賀で開催 琵琶湖博物館川那部浩哉館長が基調講演 | 京都新聞 |
| 8 | 湖沼会議を間近に控え企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長が会見 | 中日新聞 | 12 | 湖沼会議始まる、県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が基調講演 | 産経新聞 |
| 8 | 湖沼会議を前に企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長が会見 | 産経新聞 | 13 | 湖沼会議、成果期待の声次々 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 朝日新聞 |
| 8 | 滋賀県・UNEP・ILECが共同シンポジウム 県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 | 13 | 湖沼会議、基調講演 琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 中日新聞 |
| 8 | 湖沼会議を前に企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長が記者会見 | 京都新聞 | 13 | 湖沼会議、基調講演 琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 産経新聞 |
| 8 | 湖沼会議を直前に控え、企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が記者会見 | 読売新聞 | 13 | 湖沼会議、琵琶湖のブラックバス減った？ 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 毎日新聞 |
| 8 | 「湖上通勤」いかが 交通社会実験、琵琶湖博物館駐車場から大津港まで | 朝日新聞 | | | |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|-------|--|----------------------------|-------|--|-------------|
| 11 13 | 湖沼会議、基調講演 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が講演 | 毎日新聞 | 11 17 | 湖沼会議閉幕 川那部浩哉企画委員長の運営手法 | 中日新聞 |
| 13 | 湖沼会議、基調講演 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 毎日新聞 | 17 | 湖沼会議、5分科会の部会長報告 企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 中日新聞 |
| 13 | 湖沼会議、起草部会長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が琵琶湖宣言原案を公開 | 読売新聞 THE JAPAN TIMES | 17 | 湖沼会議、市民の発表は成果 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 |
| 14 | 世界の湖の今昔写真で変化紹介 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 | 17 | 湖沼会議閉幕、川那部浩哉企画委員長の話 | 読売新聞 |
| 14 | 琵琶湖が「酸欠」貝類生息に影響 県立琵琶湖博物館芳賀裕樹学芸技師らが調査 | 日経新聞 | 17 | 湖沼会議閉会、川那部浩哉企画委員長の話 | 読売新聞 |
| 14 | 琵琶湖のメダカ、水田伝い「新天地」 県立琵琶湖博物館学芸員ら「魚の会」が調査 | 産経新聞 | 18 | びわ湖男女駅伝大会、琵琶湖博物館をスタート | 産経新聞 |
| 14 | 湖沼会議、「琵琶湖セッション」コーディネーター嘉田由紀子京都精華大教授の話 | 毎日新聞 | 18 | 湖沼会議閉幕、川那部浩哉企画委員長の話 | 朝日新聞 |
| 14 | 湖沼会議、琵琶湖セッションの討論、嘉田由紀子京都精華大教授が進行役 | 読売新聞 | 19 | 環境保全を訴えるオオナマズの人形劇が県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| 14 | ヘチマどう使うの？小学生外国人にアンケート 県立琵琶湖博物館の企画 | 朝日新聞 | 19 | びわ湖男女駅伝大会、琵琶湖博物館をスタート | 朝日新聞 |
| 15 | 「かがやき未来塾」 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長が膳所小で講演 | 産経新聞 | 19 | びわ湖男女駅伝大会、琵琶湖博物館をスタート | 中日新聞 |
| 15 | 湖沼会議、漁師ら外来魚被害切々と委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 朝日新聞 | 20 | 近畿ブロックの9知事が県立琵琶湖博物館を視察 | 産経新聞 |
| 15 | 湖沼会議「議員セッション」 県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 | 21 | 湖沼会議を記念し琵琶湖百科と環境読本を出版、編集は県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問らでつくる編集委員会 | 中日新聞 |
| 15 | 湖沼会議「議員セッション」 県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 | 21 | 湖沼会議企画推進委員会、委員長＝川那部浩哉京都大学名誉教授 | 読売新聞 |
| 15 | 湖沼会議、湖代湖の訴え 琵琶湖博物館館長川那部浩哉博士の話 | 読売新聞 | 21 | 外来種各国で影響拡大 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 読売新聞 |
| 16 | 水質の浄化の小さな天才 県立琵琶湖博物館楠岡泰主任学芸員が調査、湖沼会議で発表 | 毎日新聞 | 23 | 近畿ブロックの9知事が県立琵琶湖博物館を見学 | 中日新聞 |
| 16 | 国立自然科学歴史博物館F・ピサニ学芸員は琵琶湖博物館学芸員らとともに湖岸進化の共同研究をしている | 毎日新聞 | 23 | 近畿ブロックの9知事が県立琵琶湖博物館を見学 | 京都新聞 |
| 16 | 湖沼会議の分科会 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 朝日新聞 | 23 | 湖沼会議を記念し「知ってますかこの湖をーびわ湖を語る50章」を刊行、県立琵琶湖博物館の学芸員らが研究データなどを紹介 | 産経新聞 |
| 16 | 「琵琶湖宣言2001」に向けて起草会が会合 部会長＝県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長 | 朝日新聞 | 24 | 湖沼会議、趣旨 川那部浩哉企画委員長の話 | 読売新聞 |
| 16 | 湖沼会議の分科会 琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 京都新聞 | 25 | ドングリ使い工作 県立琵琶湖博物館体験学習 | 読売新聞 |
| 16 | びわ湖男女駅伝大会、琵琶湖博物館をスタート | 読売新聞 | 27 | 湖沼会議閉幕、川那部浩哉企画委員長の話 | 読売新聞 |
| 17 | 湖沼会議閉幕 企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 産経新聞 | 28 | 県の姉妹都市、中国・湖南省代表団が県立琵琶湖博物館を見学 | 中日新聞 |
| 17 | 湖沼会議閉幕 企画委員長で県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 毎日新聞 | 29 | 命をはぐくんだ琵琶湖 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | 京都新聞 |
| 17 | 湖沼会議閉幕 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 毎日新聞 | 12 1 | 滋賀プラス1 琵琶湖博物館の催し物案内 | 各紙折り込み、各戸配布 |
| | | | 3 | 女性の時代、琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の活躍 | 毎日新聞 |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|--------------------------------------|---|--------------------------------|-------------------------------------|--|------|
| 12 | 4 外来魚7年で27種、持ち込み危険 県立琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 京都新聞 | 1 | 7 千支にちなんだ「馬魚」ワタカ 県立琵琶湖博物館で展示 | 中日新聞 |
| | 6 NGOや住民グループが湖沼会議シンポ報告会を県立琵琶湖博物館で開催 | 毎日新聞 | | 13 流域委員会に昨年2月琵琶湖部会設置(川那部浩哉会長) | 京都新聞 |
| | 7 市民やNGOが「湖沼会議まとめ会議」を県立琵琶湖博物館で開催 | 読売新聞 | | 17 参議院環境委員会が琵琶湖博物館を見学 | 京都新聞 |
| | 7 湖沼会議、企画委員長で琵琶湖博物館川那部浩哉館長の会議の総括 | 京都新聞 | | 18 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館ホールで開催 | 京都新聞 |
| | 9 住民や環境、業界団体が湖沼会議まとめ会議を県立琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 | | 18 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が基調講演 | 京都新聞 |
| | 11 水環境科学館は県立琵琶湖博物館の開館に伴い入館者が落ち込む、人気復活へ体験型に改修 | 中日新聞 | | 23 琵琶湖博物館民俗資料展「米をつくる道具―春・夏編―」開催 | 朝日新聞 |
| | 11 湖沼会議が残したもの 県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 中日新聞 | | 24 「湖西里山ミュージアム構想検討会」嘉田由紀子京都大学教授が出席 | 京都新聞 |
| | 12 愛知県林業センターの研究員が県立琵琶湖博物館を訪ね、カワウ繁殖の防止策を検討 | 産経新聞 | | 26 近江米の歴史つぶさに「米をつくる道具―春・夏編―」県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| | 13 琵琶湖宣言2001」琵琶湖博物館川那部浩哉館長が公開で文案を練る | 京都新聞 | | 27 「見えない苦労分かった」県立琵琶湖博物館で民俗収蔵庫の見学会 | 中日新聞 |
| | 14 水辺ぐらしの環境学―琵琶湖と世界の湖から 京都精華大学嘉田由紀子教授著 | 京都新聞 | | 27 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| | 17 学習船「うみのこ」琵琶湖博物館などの研究成果を生かした学習プログラムの作成を提案 | 読売新聞 | | 27 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 京都新聞 |
| | 21 「知ってますかこの湖をびわ湖を語る50章」が発行、県立琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問ら6人で編集 | 朝日新聞 | | 28 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館で開催 | 中日新聞 |
| | 24 カワウ絶滅の危機から一転増加 琵琶湖博物館亀田佳代子学芸技師の話 | 毎日新聞 | | 28 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が基調講演 | 中日新聞 |
| | 26 外来魚テーマにシンポジウム 琵琶湖博物館ホールで開催 | 産経新聞 | | 29 魚の会など主催の「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館で開催 | 朝日新聞 |
| | 26 琵琶湖の生態系守ろう、県生態系研究会会合があり、委員に琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員 | 朝日新聞 | | 29 「外来魚問題を考えるシンポジウム」琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が基調講演 | 朝日新聞 |
| | 28 川辺川ダム「生存権」漁業権の収用に反対 琵琶湖博物館嘉田由紀子研究顧問の話 | 朝日新聞 | | 30 外来魚問題に取り組む市民団体三団体は県立琵琶湖博物館でシンポジウムを開催 | 読売新聞 |
| | 28 「琵琶湖宣言2001」県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長を中心に原稿作りを進めた | 読売新聞 | | 30 シンポジウムで琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員が基調講演 | 読売新聞 |
| | 28 湖沼会議から1ヶ月後、県立琵琶湖博物館で会議 | 朝日新聞 | | 30 地球温暖化防止について考える研修会が県立琵琶湖博物館で開催 | 京都新聞 |
| | 30 トンネル水槽ピカピカに 琵琶湖博物館で水族展示室の清掃を行う | 京都新聞 | | | |
| | 1 | 1 水辺が水際が変わった 県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長の話 | | 毎日新聞 | 2 |
| 4 琵琶湖の富栄養化、全山森林伐採も原因 県立琵琶湖博物館などが調査 | | 京都新聞 | 4 シンポジウム「琵琶湖の湖底は今」琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員の話 | 毎日新聞 | |
| 7 「うおの会」魚の環境刻々と変化 県立琵琶湖博物館中島経夫研究部長の話 | | 京都新聞 | 8 「琵琶湖博物館」地域への役割を分析1冊にまとめ出版 | 京都新聞 | |
| | | | 12 関西水フォーラム パネリスト県立琵琶湖博物館川那部浩哉館長 | 読売新聞 | |
| | | | 14 琵琶湖博物館の経済・文化・社会的効果は？立命大・村山教授ら検証 | 朝日新聞 | |
| | | 15 琵琶湖博物館体験学習、親子でわら細工・簀作りに挑戦 | 読売新聞 | | |

| 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 | 月日 | 記事タイトル | 新聞社名 |
|----|--|------|---|---|------|
| 2 | 22 琵琶湖博物館の生活史コーナーになっ かしいものを見出せる | 京都新聞 | 3 | 17 子ども水フォーラム開催を 嘉田由紀 子・水と文化研究会長らをコーディネー ターに円卓会議 | 中日新聞 |
| | 23 関西水フォーラム パネルディスカッ ション 県立琵琶湖博物館川那部浩哉 館長 | 読売新聞 | | 21 どう猛カミツキガメ 琵琶湖博物館矢 野晋吾学芸技師が捕獲 | 朝日新聞 |
| | 25 県の水質保全施策の中の琵琶湖博物 館の開設 | 産経新聞 | | 21 消えた田園のハンノキ懐かしんで 湖 北原風景写真展 撮影者は内藤又一郎 さん | 中日新聞 |
| 3 | 3 琵琶湖博物館にビデオソフトとTV 息子の意志継ぎ両親が寄贈 | 毎日新聞 | 22 プレシンポ参加の150人琵琶湖博物館を 視察 | 京都新聞 | |
| | 3 琵琶湖を愛した息子の意志を生かした い 琵琶湖博物館にビデオ送る | 京都新聞 | 22 関西水フォーラム 川に向かった街づ くり 琵琶湖博物館川那部浩哉館長が 岸辺の生き物減少問題などを4人のパ ネリストたちとディスカッション | 読売新聞 | |
| | 3 息子の意志を生かし展示機器 琵琶湖 博物館に寄贈 | 朝日新聞 | 24 春の滋賀観光特集 施設紹介 湖中心に 生態究明 琵琶湖博物館 | 京都新聞 | |
| | 3 琵琶湖博物館へ両親がビデオ作り寄贈 | 中日新聞 | 31 あげにハンノキ懐かしい風景 高月、 内藤又一郎さん写真で紹介 | 京都新聞 | |
| | 4 外来魚捕獲に乗り出す 琵琶湖博物館 秋山廣光専門学芸員 | 京都新聞 | 31 県立琵琶湖博物館 かかわり身近「滋 賀のカメ」県内外11種を紹介 | 産経新聞 | |
| | 5 子供達殺到、博物館困った 滋賀県立 琵琶湖博物館布谷知夫事業部長の話 | 朝日新聞 | | | |
| | 8 ハンノキのある湖北の田園風景 高月 で内藤又一郎さん写真展 | 産経新聞 | | | |
| | 9 子ども版「世界水フォーラム」を開催 へ企画に嘉田由紀子京都精華大教授や 川那部浩哉琵琶湖博物館館長ら約30人 | 京都新聞 | | | |

4 雑誌等掲載記録

| 月 | 記事テーマ | 掲載雑誌名等 | 月 | 記事テーマ | 掲載雑誌名等 |
|----|--|--|----|---|---|
| 4 | 琵琶湖博物館 4・5月の催し物 岩盤の硬さについて「滋賀県立琵琶湖博物館」 アミューズメントスポット「滋賀県立琵琶湖博物館」 ミュージアム「琵琶湖博物館インターネット展示室」 | びいめ〜る VOL.19 たかとき川 VOL.19 (春) 春びあ (関西版) 発見! オモシロホームページ VOL.18 | 10 | 耳寄情報「琵琶湖博物館」 「湖と人」をテーマにした体験型博物館 PTのための知っ得情報「琵琶湖博物館」 琵琶湖博物館10・11月の催し物 | どうぶつと動物園 CALACO mama 118号 (注)滋賀県理学療法士会 ニュースNo.108 びいめ〜る VOL.22 |
| 5 | イベントの紹介「県立琵琶湖博物館」 | 近江歴史街道倶楽部 | 11 | 水辺の生き物や植物となかよくなろう 琵琶湖博物館 癒すならココ! 滋賀県立琵琶湖博物館 日本最古のナマズの標本が滋賀県立琵琶湖博物館に展示 | 暮らしの便利帳11月号 VOL.135 BIG tomorrow 文藝春秋 |
| 6 | 琵琶湖博物館 6・7月の催し物 イベント情報「滋賀県立琵琶湖博物館」 潮風ドライブニュース「滋賀県立琵琶湖博物館」 | びいめ〜る VOL.20 NATIONAL GEOGRAPHIC World 6月号 KANSAI 1週間 | 12 | アミューズメントスポット「滋賀県立琵琶湖博物館」 | 冬季限定びあ (関西版) |
| 7 | GO! GO! DRIVE&DATE 「滋賀県立琵琶湖博物館」 自然豊かな湖周辺で歴史浪漫を満喫「琵琶湖博物館」 探訪スポット「県立琵琶湖博物館」 JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 イベント情報「県立琵琶湖博物館」 川の中で魚をとり研究の最先端に触れる 催し案内「琵琶湖博物館」 アミューズメントスポット「滋賀県立琵琶湖博物館」 琵琶湖を学べる施設 滋賀県立琵琶湖博物館 湖国でゆっくり夏休み お車で観光スポット目安タイムマップ | Kansai Walker JR東海 夏の旅7〜9月 Urban network No.1387 JR西日本パンフレット (夏) このゆびとまれ vol.7 暮らしの風 VOL.43 わくわく情報誌 遊び・体験 8号 夏びあ (関西版) 琵琶湖まつり委員会パンフレット 旅亭 紅葉パンフレット 旅亭 紅葉パンフレット | 1 | JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 「地球丸ごと博物館」を目指して 滋賀県立琵琶湖博物館 川那部浩哉館長 オススメ食遊スポット 滋賀県立琵琶湖博物館 おでかけスポット 琵琶湖博物館 1000種の水生生物と150種の野鳥の生息地 (写真提供) 滋賀県立琵琶湖博物館 1・2・3月の催し物 表紙 (写真提供) 探討人類興湖泊的互動琵琶湖博物館 「選ばれるミュージアム」学芸員の立場から 楠岡泰主任学芸員 「選ばれるミュージアム」クローズアップ事例 琵琶湖博物館 | JR西日本パンフレット (冬) 三洋化成ニュース No.410 Kansai Walker 滋賀プラス1特別号 滋賀プラス1特別号 NEEDS 滋賀のしおり 2002 アジアエコー 1月号 AM BUSINESS AM BUSINESS |
| 9 | この夏水族館に行こう! 「琵琶湖博物館」 消えゆく水辺の魚たち (写真提供) 貴重な魚たちに逢いに行こう!! 滋賀県立琵琶湖博物館 JR近くて、いい旅 電車&ウォーク「わくわく楽しい動物園・水族館」 じゅげむインフォメーション 県立琵琶湖博物館 企画展紹介 | JAF・MATE 8.9 PORTAL PORTAL JR西日本パンフレット (秋) じゅげむ VOL.44 | 2 | 子づれであそぼ!! 琵琶湖博物館 びわ湖毎日マラソン 琵琶湖博物館紹介 今この仕事に誇りと働きがい を 滋賀県琵琶湖博物館主任学芸員松田征也 | 読売京都ライフ 2 ローム (株) 自治体の仲間 VOL.339 |
| 10 | 湖国文化情報 琵琶湖博物館の催し紹介 | れいかる<夏号> | 3 | 滋賀県立琵琶湖博物館 3月4月の特別展 「総合学習」に対するレジャー・文化施設の取り組み 滋賀県立琵琶湖博物館 訪ねてみたい建築物ガイド 現代建築 滋賀県立琵琶湖博物館 | 全科協ニュース VOL.32 月刊レジャー産業資料 No.426 関西の建築物探検 教師用解説書 |

5 テレビ放映・ラジオ放送記録

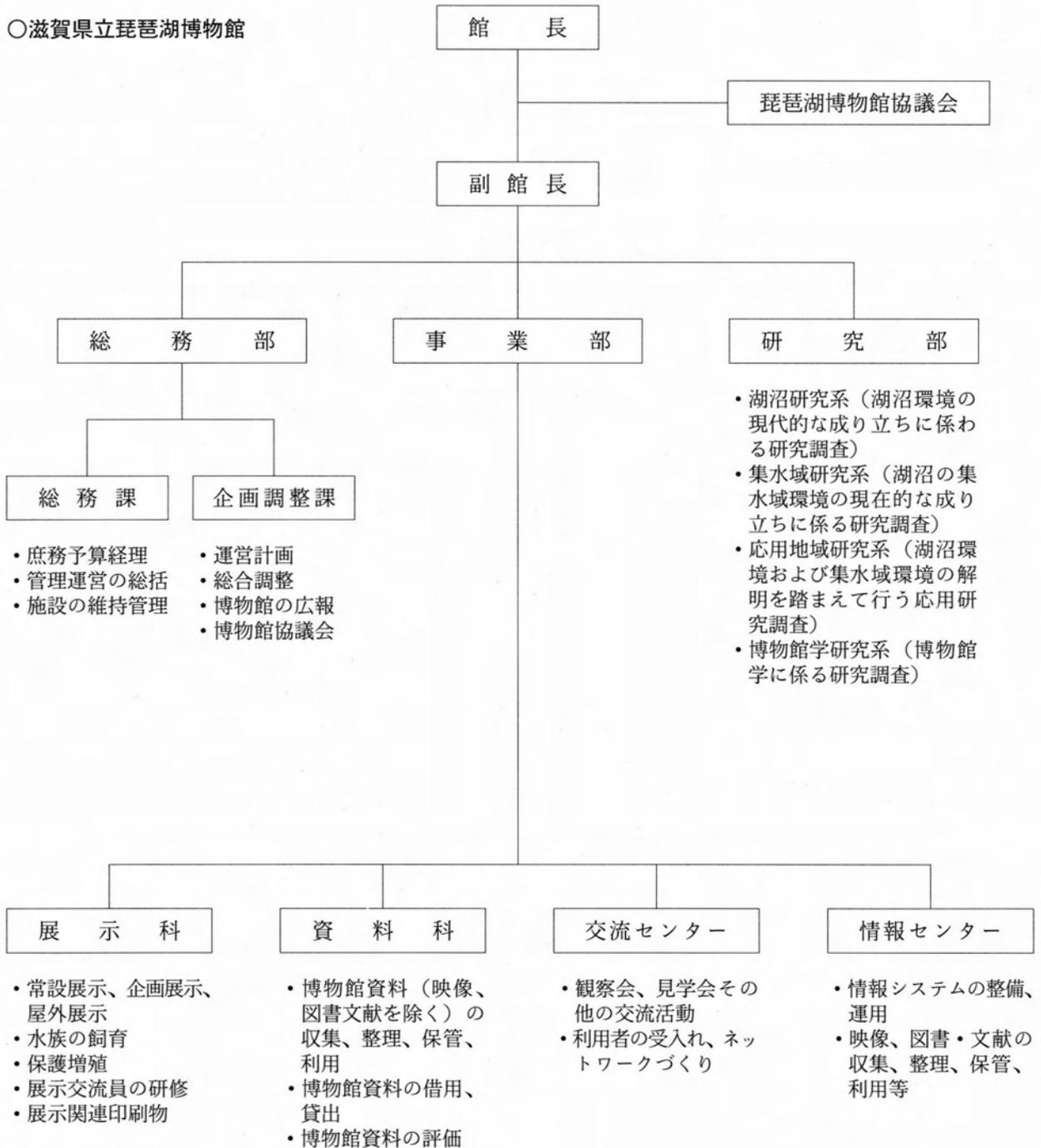
| 放送日 | 番組名 | 内容 | 媒体 | |
|-----|-----------------|---------------------|--------------------------|----------|
| 4 | 22 | イカロスの翼 | 琵琶湖には何種類くらいの魚がいるのか？ | 関西テレビ |
| | 28 | エコロジー最前線 | シンポジウムを終えての感想は？ | |
| | 29 | さわやか自然百景～春の琵琶湖～ | フナの産卵、見分け方など | NHK |
| 5 | 4 | ぴーかんテレビ 元気がいいね！ | 米原～京都サイコロ電車の旅 | 東海テレビ |
| | 15 | Voice | 「鉱物・化石展」について | 毎日放送 |
| | 22 | ニュースパーク関西 | 「鉱物・化石展」について | NHK |
| | 26 | 週刊 しが | 「鉱物・化石展」について | びわ湖放送 |
| | 30 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館6月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| | 31 | みんなでムーブメント | 「鉱物・化石展」について | KBS京都ラジオ |
| | 31 | ごめんやす馬場章夫です | 「なまず」について | 毎日放送ラジオ |
| 6 | 1・8・15 22・29 | ぶるるるぶびわこ（暮らしの便利帖） | | びわ湖放送 |
| | 2 | にっぽん美味礼賛 | 琵琶湖・ふなずし～究極のスロロード～ | NHK |
| | 3 | おーい にっぽん 今日とはことん滋賀県 | おもしろ博物館 | NHK |
| | 4 | おはよう朝日です | なまず料理の紹介 | 朝日放送 |
| | 11 | めざましテレビ | ブラックバス天井の紹介 | 関西テレビ |
| | 16～30 | 東西南北 旅 倶楽部 | 琵琶湖周辺で遊べるスポット | CATV |
| | 27 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館7月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| 7 | 3 | おはよう関西 | | NHK |
| | 25 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館8月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| 8 | 9 | ケーブルニュース | 企画展「鯰」 | OCCN |
| | 27 | とっておき関西 おひるまえ | 各府県の施設紹介 | NHK |
| 9 | 2 | 環境特番 | バス釣りブームの問題点・解決策は？ | 長野放送 |
| | 19・26 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館10月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| 10 | | 美しき日本 | | NHK |
| | | ラジオ深夜便 | 「琵琶湖の魚類」「琵琶湖と人間の関わり」について | NHK |
| | 3 | 笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ | 琵琶湖のおいたちについて | KBS京都ラジオ |
| | 24・31 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館11月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| | 27 | 週刊まるごと滋賀 | 「中世探検隊」「はしかけ」について | びわ湖放送 |

| 放送日 | | 番組名 | 内容 | 媒体 |
|-----|-------|----------------------|-------------------------|-----------------------|
| 11 | 27 | 週刊まるごと滋賀 | 「中世探検隊」「はしかけ」について | びわ湖放送 |
| | 21・28 | ぶるるるぶびわこ（デイリー情報しが） | 「県立琵琶湖博物館12月のイベント」のお知らせ | びわ湖放送 |
| 12 | 20 | 撮れたて！かわら版 | ギャラリー展「写真のナゾとき大作戦」紹介 | SCN |
| | 24 | 笑福亭見瓶のほっかほかラジオ | 琵琶湖の水質の環境と私達の暮らしについて | KBS京都ラジオ |
| | 25 | ニュースパーク関西 | 中国からの研修生の紹介 | NHK |
| | 28 | 神尾米の旅の科学 | 「淡水湖」「丸子船」「埋没林」について | スカイパーフェクトTVサイエンスチャンネル |
| | 30 | 笑顔がいちばん | 琵琶湖博物館の紹介 | 毎日放送 |
| 1 | | ガラスの地球を救えスペシャル | 水族展示の紹介 | ABC放送 |
| | 12 | ニュースパーク関西 | 体験学習の日「化石に親しもう」紹介 | NHK |
| | 18 | ワイドABCDE～す | なれ鮠に利用される魚類の紹介 | 朝日放送 |
| 2 | 21 | いくよ・くるよのおじゃまSHIG A'S | 博物館で展示している魚はどこから来るの？ | びわ湖放送 |
| 3 | 22 | とくダネ！特捜部 | 総合学習の導入と博物館の利用 | フジテレビ |

Ⅲ 組織および運営

1 組織

○滋賀県立琵琶湖博物館



職員構成（2001年4月1日現在）

| 区分 | 館長(非常勤) | 行政職 | 研究職 | 教育職 | 小計 | 嘱託等 | 合計 |
|-------|---------|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 人数(名) | 1 | 12 | 29 | 2 | 44 | 17 | 61 |

2 職 員

2001年4月1日現在

○ 館 長 川那部 浩 哉

○ 副 館 長 重 野 良 寛

総 務 部

○ 部 長 西 村 義 隆

◇ 総務課

課長(兼) 西 村 義 隆

課長補佐 白 川 重 義

主 幹 小 森 啓 二

主 幹 西 澤 崇

主任主事 西 村 佳 子

同 谷 口 ゆかり

主 事 中 山 将 人

◇ 企画調整課

課長(兼) 高 橋 啓 一

課長補佐 藤 川 剛

(兼) 八 尋 克 郎

(兼) 里 口 保 文

(兼) 橋 本 道 範

(兼) 亀 田 佳代子

事 業 部

○ 部長(兼) 布 谷 知 夫

◇ 展示科

科長(兼) 用 田 政 晴

(兼) 中 川 元 男

(兼) 井戸本 純 一

(兼) 戸 田 孝

(兼) 山 川 千代美

(兼) 宮 本 真 二

(兼) 橋 本 道 範

◇ 交流センター

科長心得(兼) 楠 岡 泰

主査(併任) 森 田 光 治

主任主事(併任) 中 川 修

(兼) 内 藤 又一郎

(兼) 長 崎 泰 則

(兼) 草 加 伸 吾

(兼) 桑 原 雅 之

(兼) 牧 野 久 実

(兼) 牧 野 厚 史

(兼) 芳 賀 裕 樹

- ◇ 資料科
- | | |
|-------|----------------|
| 科長(兼) | マーク ジョセフ グライガー |
| (兼) | 八 尋 克 郎 |
| (兼) | 中 藤 容 子 |
| (兼) | 榭 永 一 宏 |

- ◇ 情報センター
- | | |
|---------|-------------|
| 科長心得(兼) | 秋 山 廣 光 |
| (兼) | 中 井 克 樹 |
| (兼) | 芦 谷 美奈子 |
| (兼) | 里 口 保 文 |
| (兼) | 大 塚 泰 介 |
| (兼) | 前 畑 政 善 |
| (兼) | アンドリュー ロンター |

研究部

- 部長(兼) 中 島 經 夫

- ◇ 湖沼研究系
- | | |
|---------|-------------|
| 総括学芸員 | 中 島 經 夫 |
| 専門学芸員 | アンドリュー ロンター |
| ◎主任学芸員 | 楠 岡 泰 |
| 同 | 中 井 克 樹 |
| 同 | 戸 田 孝 |
| 同 | 松 田 征 也 |
| 同 | 牧 野 久 美 |
| 学 芸 員 | 芦 谷 美奈子 |
| 同 | 里 口 保 文 |
| 同 | 中 藤 容 子 |
| 学 芸 技 師 | 芳 賀 裕 樹 |
| 同 | 亀 田 佳代子 |

- ◇ 博物館学研究系
- | | |
|---------|----------------|
| ◎総括学芸員 | 布 谷 知 夫 |
| 専門学芸員 | 秋 山 廣 光 |
| 同 | マーク ジョセフ グライガー |
| 学 芸 技 師 | 橋 本 道 範 |
| (兼) | 森 田 光 治 |
| (兼) | 中 川 修 |

- ◇ 集水域研究系
- | | |
|---------|---------|
| ◎専門学芸員 | 高 橋 啓 一 |
| 主任学芸員 | 草 加 伸 吾 |
| 同 | 八 尋 克 郎 |
| 同 | 牧 野 厚 史 |
| 同 | 山 川 千代美 |
| 学 芸 員 | 榭 永 一 宏 |
| 学 芸 技 師 | 矢 野 晋 吾 |
| 同 | 大 塚 泰 介 |

- ◇ 応用地域研究系
- | | |
|---------|-----------|
| 専門員(兼) | 内 藤 又一郎 |
| ◎専門学芸員 | 前 畑 政 善 |
| 同 | 用 田 政 晴 |
| 主任主査(兼) | 中 川 元 男 |
| 主 査 | 井 戸 本 純 一 |
| 同(兼) | 長 崎 泰 則 |
| 主任学芸員 | 桑 原 雅 之 |
| 学 芸 員 | 宮 本 真 二 |

注) ◎は各研究系代表

臨時的任用職員・嘱託員

| | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 嘉田由紀子 | 研究顧問 | 山口幸江 | 昆虫標本整理 |
| 藤原史代 | 総務事務 | 國分政子 | 歴史民俗資料整理 |
| 森本優子 | 同 | 桑垣瑞 | 植物標本整理 |
| 小菅由有子 | 館長秘書 | 滝暁洋 | 実習補助・団体利用受付 |
| 宮田輝美 | 同 | 勝島治美 | 屋外展示運営 |
| 山中裕子 | ディスカバリールーム運営 | 吉村仙二郎 | 生活実験工房運営 |
| 松尾知 | 同 | 天野好美 | メディアラボ印刷・業務機器保守管理 |
| 大澤勉 | 展示物の製作・維持補修(H13.5～) | 中西美智子 | 図書情報利用室運営・図書資料整理 |
| 野間絵美子 | 地学標本整理 | | |

3 予 算

平成13年（2001年）度歳入状況 (円)

| 科 目 | 決 算 額 |
|----------|-------------|
| 使用料及び手数料 | 185,962,515 |
| 財 産 収 入 | 2,613,350 |
| 雑 入 | 128,139 |
| 合 計 | 188,704,004 |

平成13年（2001年）度歳出状況 (円)

| 事 業 名 | 事 業 内 容 | 決 算 額 |
|-----------|---|-------------|
| 管 理 運 営 費 | 施設維持費、烏丸半島整備、事務費 | 348,799,631 |
| 調査資料収集事業費 | 研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育 | 256,273,131 |
| 展 示 事 業 費 | 企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 | 193,726,868 |
| 情報交流事業費 | 情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事 業開催、フィールドレポーター | 85,576,775 |
| | 合 計 | 884,376,405 |

4 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

開催日時 2002年2月28日(木) 14:00~16:00

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

第2期委員

(任期：2000年9月1日~2002年8月31日)

| 氏 名 | 区 分 | 現 職 (2002年4月現在) |
|---------|-------|--------------------------|
| 中 西 洪 之 | 学校教育 | (前) 守山市立速野小学校 校長 |
| 南 出 義一郎 | 学校教育 | 野洲町立野洲北中学校 校長 |
| 木 邊 美 | 社会教育 | (前) ガールスカウト日本連盟滋賀県支部 支部長 |
| 東 洋 子 | 社会教育 | 滋賀県商工会女性部連合会 会長 |
| 荻 野 和 彦 | 学 識 者 | 滋賀県立大学環境科学部 教授 |
| 西 野 嘉 章 | 学 識 者 | 東京大学総合研究博物館 教授 |
| 内 田 紘 臣 | 学 識 者 | 串本海中公園センター 館長 |
| 染 川 香 澄 | 学 識 者 | ハンズ・オン・プランニング代表 |
| 上 林 彰 | 学 識 者 | (前) びわ湖放送報道制作局 局長 |
| 日 高 敏 隆 | 学 識 者 | 総合地球環境学研究所 所長 |
| 西 野 麻知子 | 学 識 者 | 滋賀県立琵琶湖研究所 総括研究員 |
| 岡 本 幸 助 | 学 識 者 | 滋賀県脊髄損傷協会 会長 |
| 古 田 研 二 | 学 識 者 | 草津市長 |
| 富 田 裕 作 | 学 識 者 | 公募委員 |
| 福 田 郁 理 | 学 識 者 | 公募委員 |

IV 博物館利用のご案内

- 開館時間 AM 9:30～PM 5:00 (入館はPM 4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(休日である場合を除く)・休日の翌日(土・日曜となる場合を除く)
・年末年始(12月28日～1月3日)
- 観覧料金(常設展)

| | 個人 | 団体(20人以上) | 共通券(*) |
|---------|------|-----------|--------|
| 小学生・中学生 | 250円 | 200円 | 320円 |
| 高校生・大学生 | 400円 | 320円 | 520円 |
| 大人 | 500円 | 400円 | 650円 |

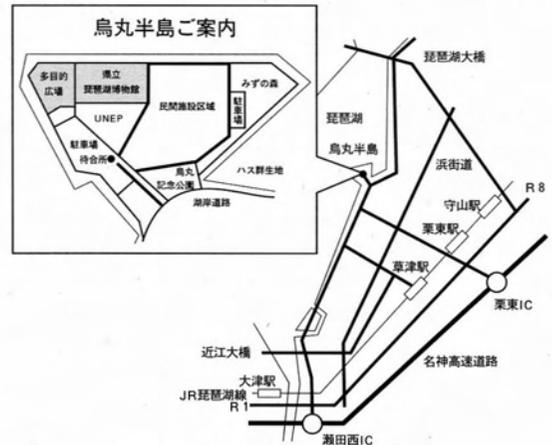
※未就学児、県内居住の65歳以上の方と障害のある方ならびに県内の学校行事としての観覧は無料です。
(詳細についてはご確認ください。)

※企画展は別途料金となります。(開催期間中)

*草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。なお、団体は取り扱いません。

■交通案内

- JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線(東海道)線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。
- 「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車(約22分)。タクシーで約20分。
- 「守山駅西口」からタクシーで約20分。
- 車では、名神高速道路「栗東IC」から国道1号線を草津方面へ。信号2つ目「上鉤」で右折。湖岸道路につき当たって(「湖岸志那中町」)再度右折し、約1kmで「烏丸半島」へ。
- 航路では、琵琶湖汽船のシャトルボートが「大津港」「びわこ大橋港」「堅田港」「雄琴温泉港」から「草津烏丸半島港」へ(問い合わせ先:琵琶湖汽船 077-524-5000)



■駐車料金

| | | | |
|------|--------|--------|--------|
| 大型バス | 1,600円 | マイクロバス | 1,050円 |
| 普通車 | 500円 | 二輪車 | 200円 |

*博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

【館内での案内】

質問コーナー:学芸職員が図書室のカウンターでみなさんからのご質問にお答えしています。
フロアトーク:平日には学芸職員がPM 2:00から担当の展示コーナーで説明を行っています。

【催し物案内】

ミュージアム観察会:博物館のまわりで自然観察したり、館内の施設で実験・実習を行います。
フィールド観察会:県内各地のフィールドで地域の自然や人々のくらしを見つめ直します。
博物館探検:普段は見ることのできない博物館や展示室の裏側を学芸職員が紹介します。
博物館講座:一般の方を対象に専門的な内容をわかりやすく数回連続でお話します。
(事前に往復ハガキで申し込んでください。詳しくは、Faxサービス(077-568-4844)、インターネットホームページ(<http://www.lbm.go.jp/>)で案内しています。)

琵琶湖博物館 年報 第6号

2002年(平成14年)8月発行

編集・発行 滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811

印刷 株式会社スマイ印刷工業

©滋賀県立琵琶湖博物館 2002

Printed in Japan

R100 この冊子は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

